

わが国における主要中心都市の 通勤・通学圏について

水 田 昭 夫*

On Commuting and School Attending Area of Major Cities in Japan

Akio MIZUTA

はじめに

各地に分布する中心都市の周辺には、その中心都市と生活、経済、文化等を共にする圏域、いわゆる都市圏が成立することは周知の事実である。この都市圏を構成する単位としては小売商圏、卸売商圏、通報・通話圏、広域市町村圏、そしてここにとりあげた通勤・通学圏などがある。これらのうち、小売商圏、通学圏などは生活圏、卸売商圏は経済圏、広域市町村圏は行政圏、通勤圏や通報・通話圏は文化圏とみなすことができる。

今回は通勤および通学に関して信頼に値する最新の昭和60年国勢調査報告が最近公表されたのを機会に、通勤と通学を合せた統計値を指標として、中心的な全国各都市に対する通勤・通学者の割合が常住就業・通学者数に対して一定率以上の圏域を拾い上げ、都市を中心とする生活・文化圏域の実態の究明を試みたものである。

都市の通勤・通学圏とはいっても、通勤と通学とでは、その占有率においてきわめて大きな差があり、一部の高校所在町村などを除いて、主要中心都市への通勤率よりはその通学率の方がはるかに高い。しかし、全国の通学者875万人に対する通勤者5,836万人の実数は約6.7倍にも達し、それは全就業・通学者の約87%にも及ぶ。このため、従属的市町村における総合的な通勤・通学率は、通勤率の値よりやや高い程度にとどまり、通学率の影響はそれほど大きなものとはならない。そこで、本論文ではあえて通勤圏と通学圏とを別々にとりあげず、通勤者と通学者の総数の和による通勤・通学圏として考察することとした。なお、通勤圏と通学圏とを対比すれば、通勤圏は通学圏より一層、行政区域にしばられることなく、より自然な広がりを見せているといえよう。

圏域の平面形態は、各地域のもつ交通条件の強い影響がみられることは勿論であるが、他に地形的条件、行政的条件、歴史的条件や、中心都市の規模・機能的特性、中心都市の分布状態等の影響がみられ、これら諸条件の総合的結果として大小各々の通勤・通学圏が存在しているといつてよからう。

1. 中心都市の選定

主要中心都市とは、当地従業・通学者数が比較的多く、かつ周辺市町村からも多くの通

* 地理学研究室（昭和63年9月22日受理）

勤・通学者を迎え入れる都市をいう。但し、衛星都市のように常住者のうち他の中心都市へ高い割合の通勤・通学がみられるような都市は除かれる。そこで、ここでは下記の諸条件を設定し、この条件をすべて満す都市（市または町）を主要中心都市とみなすこととした。

- (1) 当地従業・通学者1万人以上。
- (2) 当地従業・通学者のうち、他市町村での常住者2千人以上。
- (3) 当地での常住就業・通学者より従業・通学者が多いこと。但し、
- (4) 当地常住就業・通学者の10%以上が他の中心都市で従業・通学する都市を除く。また、
- (5) 当地常住就業・通学者の5%以上、10%未満が一方向的に他の中心都市で従業・通学する都市は、「準中心都市」とよぶ。

検討の結果、選定された中心都市は233都市、準中心都市は63都市、合計296都市である。また、各圏域に包括される市町村名とその中心都市への通勤・通学率は表1のとおりである。5%以上の通勤・通学圏に含まれる市町村は全国で2,495を算え、全市町村数3,254の約77%に及ぶ。東京区部は関東1都5県にわたる141の、大阪は近畿2府4県に86の、名古屋は東海3県に61の5%を超える通勤・通学率をもつ市町村を数える。他に、甲府、松本、津山、飯塚、佐賀といった盆地や平野の中心都市も都市規模の割には数多い通勤・通学圏域市町村を保有する。

中心都市への通勤・通学率は、高いところで仙台圏の泉市（S.62に仙台市へ合併）の60.1%を筆頭に、東京圏の浦安市57.4%、札幌圏の石狩町55.9%、米子圏の日吉津村53.1%、長崎圏の長与町52.4%、熊本圏の飽田町52.3%の順で、50%を超えるものが10都市圏に16市町村を算える。

また、表2によれば、人口規模の大きな中心都市ほど数多くの通勤・通学圏域市町村を保有し、また、中心都市に対する通勤・通学率の高い市町村の占める割合が大きくなる傾向がみられる。

表1. 主要中心都市とその通勤・通学圏域市町村

(注) 1. 表中△は準中心都市を示す。

2. 2つ以上の中心都市の圏域に含まれる市町村は、通勤・通学者の最も多い都市の圏域のみに含めた。

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %
(北海道) 札幌市	石狩町	55.9	函館市	東神楽町	25.8	帯広市	白糠町	17.0
	広島町	42.8		当麻町	24.7		鶴居村	8.9
	江別市	35.3		東川町	21.3		阿寒町	6.6
	当別町	14.5		愛別町	14.5		音別町	6.6
	小樽市	12.4		美瑛町	8.5		音更町	32.4
	小恵庭市	12.0		上磯町	40.1		幕別町	26.0
	厚田村	10.8		七飯町	33.3		茅室町	16.5
	南幌町	8.8		大野町	21.9		池田町	7.0
	岩見沢市	6.2		戸井町	19.3		中札内村	6.8
	旭川市	31.2		木古内町	9.5		士幌町	5.7
	鷹栖町	31.2	砂原町	5.2	滑水町	5.3		
	比布町	26.1	釧路市	釧路町	41.1	室蘭市	登別市	38.9

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)		
苦小牧市	伊達市	12.5	五所川原市	黒石市	9.2	北上市	田老町	18.5		
	早来町	14.2		板柳町	8.6		山田町	9.6		
	白老町	10.6		柏村	19.2		川井村	5.8		
	鶴川町	7.5		金木町	10.9		江釣子村	34.5		
	追分町	5.9		森田村	10.5		和賀町	22.6		
	厚真町	5.8		鶴田町	9.9		湯田町	6.0		
	北見市	24.8		木造町	9.7		釜石市	25.2		
	端野町	12.6		稲垣村	7.6		大船渡市	17.3		
	訓子府町	8.7		十和田湖町	18.4		三陸町	10.0		
	留辺蘆町	6.9		六戸町	12.2		陸前高田市	7.9		
千歳市	——	——	むつ市	七戸町	9.4	久慈市	住田村	23.3		
	新十津川町	22.7		天間林村	5.7		野田村	11.1		
滝川市	雨竜町	10.7	盛岡市	東通町	20.4	二戸市	大野村	9.5		
砂川市	上砂川町	14.0		大畑町	16.6		山形村	8.7		
	奈井江町	10.3		脇野沢村	9.4		一戸町	8.0		
美唄市	歌志内市	7.6		川内町	9.0		(宮城県)	仙台市	九戸村	6.1
	——	——		風間浦村	5.9				泉市	60.1
(青森県)	——	——		三沢市	横浜町		5.4	宮城町	46.8	
青森市	蓮田村	27.2		(岩手県)	北上北町		14.1	富谷町	43.8	
	平館村	18.8		盛岡市	滝沢村		40.5	多賀城市	38.1	
	平内町	15.9			滝南村		32.2	名取市	36.1	
	蟹田町	13.3			玉山村		20.0	利府町	34.2	
	浪岡町	12.2	矢巾町		18.8	七ヶ浜町	29.2			
	八戸市	階上町	49.4		石町	17.1	岩沼市	27.8		
	階上町	33.8	紫波町		14.1	秋保町	27.7			
	福地村	21.0	岩手町		10.7	塩竈市	27.5			
	福地村	19.4	西根町		10.4	松島町	23.8			
	福地村	19.1	松尾村		6.9	巨理町	22.9			
福地村	17.7	水沢市	胆沢町		22.1	鹿島台町	20.2			
八戸市	下田町	15.5	一関市	前江町	14.6	山元町	20.0			
	名川町	15.2		江刺市	12.5	柴田町	17.7			
	南部町	11.7		金ヶ崎町	9.6	松山町	16.1			
	倉石村	7.8		平泉町	27.8	大和町	14.8			
	三戸町	5.7		花泉町	14.8	大河原町	14.7			
	弘前市	西目屋村		25.9	川崎村	14.4	大郷町	14.4		
	岩木町	24.8		東山町	11.2	鳴瀬町	13.5			
	岩木町	23.1		衣川村	11.1	川崎町	10.5			
	藤崎町	20.5		金成町	9.4	大衡村	9.8			
	大鰐町	20.5		石鳥谷町	16.1	南郷町	9.7			
弘前市	相馬村	20.0	△花巻市	東和町	13.7	村田町	8.2			
	尾上町	19.7		宮守村	6.4	白石市	7.4			
	碓ヶ関村	17.7		大迫町	5.1	瀬峰町	6.8			
	平賀町	17.2		宮古市	29.2	新地町	6.5			
	常盤村	17.0								

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %
石巻市	角田市	6.4	能代市	協和町	20.5	△鷹巣町 (山形県) 山形市	中仙町	12.1
	涌谷町	5.6		井川町	20.1		田沢湖町	9.7
	矢本町	25.0		五城目町	15.7		合川町	8.1
	河北町	23.6		若美町	13.4		森吉町	7.2
	河南町	20.9		男鹿市	12.3		中山町	31.6
	女川町	15.9		峰浜村	27.6		山辺町	30.7
	北上町	14.7		八森町	22.3		上山市	23.4
	桃生町	12.5		八竜町	17.1		天童市	19.4
	津山町	8.0		山本町	16.9		寒河江市	12.6
	牡鹿町	7.5		二ツ井町	13.2		東根市	9.2
古川市	雄勝町	7.1	琴丘町	8.4	大江町	7.9		
	三本木町	19.7	藤里町	7.2	河北町	7.6		
	小牛田町	14.1	岩崎村	6.5	西川町	6.9		
	岩出山町	13.5	比内町	31.5	村山市	5.4		
	中新田町	12.0	田代町	28.0	平田町	31.1		
	高清水町	12.0	由利町	22.9	八幡町	28.7		
	田尻町	10.2	大内町	22.6	八遊佐町	25.5		
	小野田町	7.4	西目町	22.1	松山町	21.9		
	色麻町	6.7	矢島町	9.7	余目町	18.5		
	宮崎町	6.4	仁賀保町	8.6	立川町	12.0		
気仙沼市	鳴子町	6.2	金浦町	7.3	鶴岡市	羽黒町	26.2	
	唐桑町	42.5	東由利町	6.0	榑引町	25.8		
	本吉町	24.9	象潟町	5.1	藤島町	22.7		
	室根村	12.0	山内村	26.9	三川町	22.3		
	歌津町	10.6	大平町	17.2	朝日村	18.5		
	南方町	16.3	仙南村	12.5	温海町	12.2		
	中田町	15.4	雄物川町	8.5	高島町	15.0		
	東和町	10.5	大森町	7.0	川西町	14.8		
	米山町	8.8	増田町	5.3	南陽市	7.3		
	登米町	8.3	仙北町	22.2	舟形町	24.5		
築館町	石越町	6.7	神岡町	21.4	大蔵村	21.2		
	志波姫町	21.4	六郷町	13.9	戸沢村	17.8		
	一迫町	15.3	南外村	13.7	鮭川村	17.5		
	花山村	7.7	千畑町	11.2	金山町	16.5		
	若柳町	6.1	西仙北町	8.7	真室川町	15.6		
	栗駒町	5.8	太田町	7.0	最上町	9.0		
	(秋田県) 秋田市	河辺町	38.2	太田町	7.0	長井市	飯豊町	16.8
		天王町	35.7	雄勝町	11.5	(福島県) 郡山市	白鷹町	13.7
		昭和町	31.4	羽後町	11.5		三春町	25.3
		雄和町	30.7	稲川町	10.5		本宮町	18.7
飯田川町		28.9	十文字町	8.7	須賀川市		12.3	
岩城町		28.3	皆瀬村	7.0	岩瀬村		10.6	
岩城町		28.3	東成瀬村	5.5				
八郎潟町		22.0	西木村	14.5				

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)		
		%			%			%		
いわき市	大玉村	9.2	△二本松市	安達町	19.5	下館市	大穂町	8.7		
	鏡石町	8.8		岩代町	10.4		桜村	8.7		
	白沢村	8.7	石川町	東和町	9.6		美野里町	7.9		
	船引町	8.7		古殿町	10.7		豊里町	6.9		
	大越町	7.9		玉川村	8.3		八郷町	6.9		
	福島市	大滝根町	6.4	棚倉町	平田村		6.7	谷田部町	6.2	
		広野町	16.0		埴町		11.9	江戸崎町	5.5	
		楡葉町	10.2		矢祭町		8.4	協和町	16.9	
		会津若松市	伊達町	34.5	(茨城県)		浅川町	8.0	明野町	14.7
			桑折町	25.6			鯨川村	6.7	関城町	14.0
飯野町			24.1	水戸市		常澄村	25.9	真壁町	9.6	
国見町			22.0			常北町	25.5	大和村	8.7	
保原町			19.4			内原町	25.0	大岩瀬町	8.4	
霊山町			14.9			茨城町	23.0	大野村	30.9	
月舘町			12.2			那珂町	20.8	大潮来町	18.5	
川俣町	11.8		瓜連町			19.7	大東庄町	9.8		
梁川町	11.5		桂村			19.5	小見川町	9.0		
河東町	40.0		友部町			18.1	牛堀町	8.1		
本郷町	31.1	大洗町	17.5		麻生町	6.5				
北会津村	28.2	勝田市	15.4		谷和原村	12.7				
湯川村	26.3	那珂湊市	14.6	石下町	6.9					
新鶴村	22.2	大宮町	14.1	岩井市	6.4					
会津高田町	21.7	笠間市	12.0	波崎町	17.3					
磐梯町	21.0	岩間町	10.4	千代川村	15.0					
会津坂下町	13.2	御前山村	9.9	八千代町	7.1					
下郷町	8.7	山方町	9.5	旭村	7.6					
三島町	7.1	七会村	8.7	北浦村	6.5					
猪苗代町	7.0	金砂郷村	8.0	玉造町	5.5					
柳津町	6.8	十王町	45.2	境町	7.5					
白河市	西郷村	31.2	日立市	高萩市	22.3	宇都宮市	河内町	46.2		
	表郷村	27.7		東海村	16.8		高根沢町	27.6		
	大信村	17.3		常陸太田市	16.2		上河内町	27.4		
	大泉村	16.9		北茨城市	15.2		考貫町	23.5		
	東村	13.0		里美村	9.4		氏家町	18.0		
	中島村	9.9		水府村	9.3		石橋町	14.6		
	矢吹町	7.0		千代田村	33.5		壬生町	14.5		
	鹿島町	22.5		出島村	23.0		南那須町	14.1		
	小高町	14.6		新治村	22.4		市貝町	13.3		
	△喜多方市	熱塩加納村		34.1	阿見町		20.1	上三川町	12.5	
北塩原村	24.5	筑波町	12.1	鹿沼市	11.4					
塩川町	15.7	石岡市	10.7	今市市	11.1					
山都町	13.9	美浦村	10.2	喜連川町	9.4					
高郷村	10.9	玉里村	9.8							
西会津町	5.1									

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域都市	中心都市への通勤・通学率(S.60)		
		%			%			%		
小山市	茂木町	7.4	桐生市	子持村	8.2	本庄市	皆野町	16.9		
	国分寺町	17.1		小野上村	7.3		小鹿野町	12.4		
	結城市	14.1		東村	6.7		吉田町	11.4		
足利市	南河内町	7.2		笠懸村	24.8		長瀬町	10.9		
	田沼町	20.3		大間々町	23.6		大滝村	10.8		
△佐野市	葛生町	14.6		黒保根村	17.4		両神村	10.3		
	岩舟町	13.8		東村	17.2		上里町	18.4		
栃木市	藤岡町	6.9		新里村	16.9		美里町	15.0		
	都賀町	24.8		敷塚本町	14.1		児玉町	10.2		
	大平町	13.1		新田町	19.1		神川町	8.6		
大田原市	西方村	11.9	尾島町	18.7	(千葉県)	君津市	富津市	14.5		
	粟野町	6.7	大泉町	10.9			木更津市	13.3		
	西那須野町	19.3	東村	20.5			長南町	28.9		
△真岡市	湯澤上村	15.4	△伊勢崎市	境町			18.1	茂原市	長生村	25.9
	黒羽町	13.8	館林市	赤堀町			14.0	睦沢町	25.2	
	二宮町	18.9	明和村	17.8			長柄町	21.8		
黒磯市	益子町	15.0	板倉町	14.3			白子町	18.0		
	那須町	14.0	邑楽町	12.9			一宮町	15.5		
△矢板市	塩谷町	10.0	千代田町	8.9			岬町	13.2		
△鳥山町	馬頭町	9.9	川場村	25.1			夷隅町	9.7		
日光市 (群馬県)	美和村	8.3	白沢村	24.2	御宿町	7.8				
	小川町	7.2	昭和村	17.8	大原町	7.6				
	箕郷町	25.2	月夜野町	16.9	大多喜町	5.0				
	群馬町	24.6	新治村	12.2	富里町	21.0				
	榛名町	23.2	利根村	10.5	下総町	18.8				
	安中市	16.7	水上町	6.1	大柴町	15.6				
前橋市	吉井町	16.7	高山村	5.1	神崎町	12.5				
	新町	14.4	△富岡市	甘桑町	18.4	多古町	11.2			
	松井田町	14.2	(埼玉県)	妙義町	16.0	芝山町	10.4			
	玉村町	14.1	△熊谷市	南牧村	15.4	本埜村	6.9			
	藤岡市	12.0	江南村	14.4	佐原市	6.3				
	倉淵村	11.5	川本町	17.0	栗原町	6.2				
	富士見村	37.6	南河原村	16.0	印旛村	5.4				
	大胡町	31.5	大里村	15.2	館山市	三芳村	26.6			
	大吉岡村	22.8	妻沼町	13.5	富浦町	25.2				
	宮城村	19.7	花園町	11.2	千倉町	16.1				
榛東村	17.7	深谷市	10.2	丸山町	15.2					
北橋村	17.6	行田市	7.5	富山町	14.2					
粕川村	16.5	岡部町	7.1	白浜町	14.2					
渋川市	11.7	寄居町	6.8	和南町	12.8					
赤城	11.0	秩父市	荒川村	36.9	銚子市	——				
			横瀬	33.0	△旭市	海上町	15.3			

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)
鴨川市 (東京都) 東京区部		%			%			%
	飯岡町	12.2	三郷市	32.6	川越市	22.0		
	千潟町	10.1	小平市	32.5	吉川町	21.6		
	八日市場市	5.7	港北区	32.2	港南区	21.2		
	天津小湊町	19.5	川崎市	32.0	東大和市	21.1		
			川崎市	31.8	杉戸町	21.1		
	浦安市	57.4	鎌ヶ谷市	31.8	神奈川区	21.1		
	保谷市	52.2	三芳町	30.7	坂戸市	21.1		
	狛江市	51.4	府中市	30.2	桶川市	21.1		
	武蔵野市	50.6	与野市	30.1	金沢区	20.8		
	和光市	50.5	国立市	29.9	入間市	20.3		
	市川市	49.5	八千代市	29.5	磯子区	20.0		
	三鷹市	45.8	利根町	29.5	四街道市	19.8		
	調布市	45.7	稲城市	29.1	保土ヶ谷区	19.8		
	田無市	45.4	町田市	28.9	栗橋町	19.6		
	麻生区	45.1	鳩ヶ谷市	28.2	戸塚区	19.6		
	小金井市	44.3	運田市	27.8	幸手市	19.5		
	松戸市	42.6	日野市	27.6	立川市	19.5		
	東久留米市	42.5	墨崎町	27.6	旭区	18.9		
	草加市	41.1	藤代町	27.6	松伏町	18.6		
	蕨市	39.9	八潮市	27.2	酒々井町	18.1		
	船橋市	39.5	鎌倉市	26.6	伊奈町(埼玉)	17.9		
	宮前区	39.3	大井町	26.5	野田市	17.8		
	我孫子市	39.2	大宮代町	26.4	川崎区	17.8		
	新座市	39.2	逗子市	25.9	栄町	17.6		
	志木市	39.0	大宮市	25.3	西区	17.5		
	多摩市	38.3	戸田市	25.2	茅ヶ崎市	16.8		
	柏市	37.6	白井町	25.1	守谷町	16.8		
	滑瀬市	37.4	佐倉市	24.7	南区	16.7		
	流山市	37.4	牛久市	24.7	岩槻市	16.5		
	習志野市	37.0	鶴ヶ島町	24.0	八王子市	16.5		
	多摩区	36.7	幸区	23.7	伊奈町(茨城)	16.4		
	朝霞市	36.6	鷺宮町	23.4	鴻巣市	16.3		
	越谷市	36.4	沼南町	23.2	中区	16.1		
	国分寺市	36.1	千葉市	23.1	藤沢市	15.9		
	富士見市	35.7	庄和町	23.1	吹上町	15.9		
	緑区	35.3	上尾市	23.0	昭島市	15.3		
	高津区	34.5	狭山市	23.0	印西市	15.3		
	東村山市	34.5	鳩山町	22.9	座間市	14.9		
	上福岡市	34.0	白岡町	22.9	大利根町	14.3		
中原区	33.8	北本市	22.8	瀬谷区	14.1			
浦和市	33.8	葉山町	22.7	相模原市	14.1			
所沢市	33.0	横浜市	22.6	大和市	13.7			
取手市	32.8	久喜市	22.6	野木町	13.4			
春日部市	32.7	鶴見区	22.0	龍ヶ崎	13.3			

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %	
(神奈川県) △平塚市 小田原市	古河市	13.2	△厚木市	松田町	16.1	三條市	板倉町	17.5	
	武蔵村山市	12.5		湯河原町	14.4		新井市	14.4	
	北川辺町	12.1		山北町	13.9		柿崎町	12.4	
	福生市	12.1		箱根町	9.4		吉川町	9.6	
	毛呂山町	11.7		中井町	8.9		中郷村	9.2	
	海老名市	11.3		清川村	31.6		安塚町	8.0	
	日高町	10.8		愛川町	18.3		妙高村	7.8	
	飯能市	10.4		伊勢原市	11.7		妙高高原町	6.9	
	嵐山町	10.2		(新潟県) 新潟市	黒埼町		44.7	大島村	5.7
	羽村町	10.2			黒亀田町		42.6	下田村	34.5
	東松山市	10.0			豊栄市		35.4	栄町	26.6
	秋川市	9.3	横越村		31.8	田上町	10.8		
	加須市	9.1	新津市		26.4	加茂市	10.2		
	関宿町	8.6	西川町		23.0	刈羽村	42.3		
	横須賀市	8.5	京ヶ瀬村		19.3	西山町	32.1		
	葛瀬町	8.3	味方村		18.4	高柳町	17.2		
	綾瀬市	8.3	小須戸町		15.3	出雲崎町	13.3		
	青梅市	7.2	白根市		13.6	加治川村	26.6		
	大網白里町	7.2	巻町		12.9	豊浦町	25.7		
	小川町	7.1	水原町		12.1	紫雲寺町	19.4		
	滑川町	6.8	岩室村		9.7	聖籠町	19.0		
	五日市町	6.6	鴻東村		9.2	中之口村	15.5		
	日の出町	6.5	笹神村	9.0	吉田町	11.9			
	越生町	6.4	月潟村	8.0	分水町	10.5			
	藤野町	6.2	五泉市	7.8	弥彦村	8.3			
	市原市	6.1	三川村	6.0	寺泊町	5.7			
	瑞穂町	5.9	安田町	5.6	川西町	22.4			
	城山町	5.9	三島町	42.8	中里村	19.0			
	五霞村	5.8	越路町	38.5	津南町	5.9			
	騎西町	5.7	与板町	26.7	朝日村	29.1			
	羽生市	5.7	中之島町	21.3	神林村	24.4			
	絵和町	5.6	見附市	15.5	山北町	9.7			
	吉見町	5.6	山古志村	13.8	関川村	7.2			
	川島町	5.5	小国町	11.9	青海町	21.8			
	相模湖町	5.2	栃尾市	8.4	能生町	13.5			
	大磯町	20.5	和島村	5.2	塩沢町	17.4			
	二宮町	14.7	三和村	40.2	大和町	12.0			
	秦野市	10.5	頸城村	37.5	川口町	18.9			
	寒川町	5.3	清里村	30.2	黒川村	19.9			
	南足柄市	24.7	大潟町	26.7	荒川町	11.7			
	真鶴町	22.2	浦川原村	20.2	湯之谷村	20.8			
	大井町	20.8	名立町	19.7	広神村	15.8			
	開成町	16.2	牧村	18.2	守門村	13.2			
					堀之内町	9.2			

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(%) (S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(%) (S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(%) (S.60)	
(富山県) 富山市	入広瀬村	6.7	小松市 七尾市 (福井県) 福井市	志雄町	12.6	甲府市	敷島町	41.0	
	舟橋村	44.8		吉野谷村	12.2		昭和町	34.7	
	大山町	37.1		尾口村	9.4		竜王町	34.0	
	婦中町	35.8		羽咋市	8.7		玉穂町	25.4	
	立山町	34.1		根上町	20.2		田富町	24.2	
	下村	32.9		寺井町	20.2		中道町	23.9	
	大沢野町	32.4		加賀市	7.4		双葉町	22.1	
	上市町	27.2		田鶴浜町	28.4		石和町	22.0	
	細入村	26.1		中島町	22.1		境川村	21.4	
	八尾町	23.9		能登島町	19.4		豊富村	20.7	
	小杉町	23.3		鳥屋町	17.6		八田村	18.4	
	滑川市	21.3		鹿島町	17.0		春日居町	17.8	
	山田村	19.4		鹿西町	14.1		三珠町	16.9	
	高岡市	大大門町		27.9	清水町		46.6	若草町	15.6
	大島町	27.2		松岡町	40.8		八代町	15.1	
	福岡町	25.1		美山町	38.4		御坂町	14.5	
	氷見市	24.9		永平寺町	34.4		白根町	14.3	
	新湊市	18.0		上志比村	33.7		山梨市	14.2	
	砺波市	14.0		春江町	33.1		市川大門町	14.1	
小矢部市	8.7	越廼村	25.5	六郷町	13.2				
庄川町	6.5	坂井町	25.5	梯形村	12.5				
△魚津市	黒部市	11.1	丸岡町	23.6	芦川村	12.4			
宇奈月町	8.1	金津町	15.9	葦崎	12.1				
入善町	6.3	朝日町	15.7	一宮	11.9				
朝日町	5.6	三国町	15.5	甲西町	11.5				
△福野町	井ノ口村	9.3	芦原町	13.2	塩山市	11.4			
井波町	6.7	鯖江市	12.5	増穂町	11.2				
福光町	5.9	鯖田町	11.4	鎌沢町	10.5				
(石川県) 金沢市	内灘町	47.2	勝山市	10.8	下部町	10.1			
	野々市町	37.4	大野市	8.0	大和村	9.4			
	津幡町	36.3	南条町	31.8	勝沼	9.2			
	松任市	31.0	河野村	31.1	明三	8.6			
	鶴来町	30.6	今庄町	20.8	三富	8.5			
	宇ノ気町	27.4	今立町	18.5	牧丘	8.4			
	七塚町	25.3	宮崎村	15.1	武川	7.5			
	高松町	21.6	池田町	10.4	須中	7.4			
	美川町	20.3	越前町	9.7	富安	6.9			
	河内村	17.0	美浜町	22.3	中安	6.6			
	押水町	16.9	三方町	11.9	長坂	6.3			
	川北町	16.0	名田庄	32.1	足和田	23.0			
	鳥越村	15.0	上中	25.1	勝山	20.8			
	辰口	13.1	大飯	12.8	河口湖	19.2			
			(山梨県)		西桂	17.9			
					忍野	15.5			

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %
(長野県) 長野市	山中湖村	12.7	飯田市	丸子町	19.4	(岐阜県) 岐阜市	松川村	14.9
	鳴沢村	12.5		坂城町	13.7		白馬村	6.4
	都留市	6.0		北御牧村	10.4		高富町	34.3
	豊野町	33.3		武石村	9.9		北方町	32.3
	幸礼村	32.1		長門町	9.8		伊自良村	29.2
	中条村	31.2		立科町	6.0		本巢町	25.6
	戸隠村	29.5		和田村	5.9		岐南町	25.3
	更埴市	23.5		上郷町	37.5		穂積町	24.1
	三水村	23.3		喬木村	26.5		真正町	23.6
	須坂市	20.3		高森町	22.8		糸貫町	21.0
	鬼無里村	19.1		下条村	20.1		柳津町	20.4
	信濃町	18.6		豊丘村	17.9		墨俣町	19.5
	小川村	17.8		阿智村	17.6		笠松町	18.8
	豊田村	15.9		泰阜村	14.8		大野町	17.4
	小布施町	15.7		清内路村	11.9		各務原市	16.2
	信州新町	13.7		浪合村	10.7		美山町	13.9
	戸倉町	12.9		松川町	10.2		美谷汲村	12.7
	高山村	12.0		阿南町	7.3		武芸川町	12.3
	大岡村	9.0		天竜村	6.1		羽島市	12.3
	上山田町	7.9		茅野市	15.1		川島町	10.4
波田町	34.0	富士見町	11.2	関市	8.8			
四賀村	30.7	原村	9.8	美濃市	6.8			
三郷村	30.2	下諏訪町	17.1	洞戸村	5.7			
山形村	29.5	辰野町	10.1	根尾村	5.4			
梓川村	28.4	臼田町	19.6	神戸町	24.5			
明科町	28.0	佐久町	18.0	養老町	22.4			
豊科町	27.1	八千穂村	15.8	池田町	20.0			
本城村	24.5	浅科村	15.0	垂井町	18.7			
坂北村	24.3	小海町	10.2	安八町	16.8			
朝日村	22.0	南相木村	9.0	輪之内町	15.8			
堀金村	18.8	望月町	6.8	関ヶ原町	14.3			
塩尻市	18.7	北相木村	6.7	上石津町	13.8			
穂高町	17.7	南箕輪村	26.8	揖斐川町	11.1			
生坂村	15.5	高遠町	25.3	春日村	8.4			
麻績村	14.9	長谷村	20.8	平田町	7.6			
奈川村	14.9	箕輪町	11.2	宮村	40.4			
坂井村	14.4	山ノ内町	16.0	清見村	33.4			
池田町	11.5	木島平村	6.6	丹生川村	29.4			
安曇村	10.3	御代田町	9.7	国府町	26.8			
青木村	10.0	宮田村	18.1	久々野町	26.7			
青真部町	39.5	飯島町	16.4	朝日村	18.6			
真部町	32.8	中川村	10.0	古川町	15.2			
上田市	21.3	美麻村	29.4					
		八坂村	23.2					

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)
豊田市	御津町	12.0	伊勢市	白山町	13.9	八日市市	木之本町	11.9
	田原町	11.7		白鬮町	7.0		余呉町	11.1
	豊川市	11.2		美杉村	5.5		山東町	9.8
	一宮町	10.6		御園村	39.5		伊吹町	8.5
	新城市	9.5		二見町	28.7		西浅井町	5.9
	音羽町	8.7		度会町	24.9		永源寺町	26.7
	赤羽根町	5.3		小俣町	24.8		愛東町	17.9
	鳳来町	5.1		玉城町	18.3		湖東町	12.9
	藤岡町	32.1		磯部町	7.7		補生町	10.7
	足助町	31.3		南勢町	5.9		五個荘町	8.5
	小原村	19.4		阿児町	5.2		土山町	16.4
	旭町	16.8		勢和村	25.8		甲南町	14.4
	三好町	16.0		多気町	20.4		甲賀町	11.2
	下山村	13.5		飯南町	19.5		日野町	9.3
岡崎町	6.4	明和町	17.7	信楽町	5.3			
△刈谷市	稲武町	5.5	大台町	11.4	△粟東町	——	石部町	10.5
	知立市	14.5	大宮町	9.7	甲西町	——	石竜王町	5.6
	高浜市	12.2	飯高町	6.6	(京都府)京都市	向日市	45.8	
△西尾市	高善町	6.3	上野市	大山田村		28.1	宇治市	35.0
	吉良町	15.9	阿山町	25.3		城陽市	32.5	
	一色町	14.6	島ヶ原村	18.2		長岡京市	31.8	
△安城市(三重県)	幡豆町	10.9	伊賀町	18.0		亀岡市	29.3	
	幸田町	9.0	月ヶ瀬村	13.5		大山崎町	26.6	
	——	——	青山町	9.1		八木町	22.8	
△四日市市	孤野町	33.1	尾鷲市	海山町		17.6	久御山町	22.5
	菰橋町	32.8	熊野市	紀伊長島町		5.1	田辺町	22.0
	川越町	23.5	△鳥羽市	御浜町		13.5	井手町	17.9
	朝日町	17.0	(滋賀県)	北山村		8.8	志賀町	17.9
	朝日町	17.0	彦根市	——		園部町	17.7	
	鈴鹿市	15.0	多賀町	28.0		大津市	17.1	
	大安町	13.2	甲良町	25.7		宇治田原町	14.7	
	大亀山町	8.2	豊郷町	20.2	日吉町	12.7		
	藤原町	8.2	米原町	17.9	草津市	12.6		
	員弁町	6.5	米原町	17.9	京北町	11.9		
	北勢町	6.5	秦荘町	11.0	野洲町	11.7		
	美里村	36.9	愛知川町	9.6	山城町	10.3		
	安濃町	35.7	能登川町	8.9	丹波町	10.1		
	香良洲町	34.4	能登川町	8.9	守山市	9.4		
久居市	28.6	びわ町	33.0	近江八幡市	8.3			
河芸町	24.1	浅井町	25.2	安土町	8.3			
一志町	23.8	虎姫町	20.7	中主町	6.6			
嬉野町	22.9	湖北町	18.4	高浜町	13.9			
三芸濃町	22.5	近江町	15.1					
芸濃町	19.9	高月町	12.2	舞鶴市				

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	
福知山市	夜久野町	26.8		枚方市	25.6		木津町	11.3	
	三和町	24.1		高槻市	25.1		御所市	10.6	
	大江町	17.0		守口市	25.1		高取町	10.5	
	大市島町	16.5		西宮市	25.1		明日香村	10.3	
	綾部市	9.2		大東市	24.4		九度山町	9.2	
	春日町	6.1		四条畷市	24.3		室生村	8.8	
	岩滝町	17.7		東大阪市	23.8		大淀町	7.8	
	伊根町	9.7		太子町	23.7		笠置町	5.9	
	野田川町	5.5		奈良市	23.5		南山城村	5.9	
	弥栄町	18.1		門真市	23.4		大字陀町	5.7	
宮津市	大宮町	15.6	安堵町	22.5	能勢町	5.4	(兵庫県) △神戸市	明石市	32.8
	丹後町	6.0	当麻町	22.5	交野市	21.3		三木市	23.9
	吹田市	38.3	尼崎	21.1	千早赤阪村	20.7		播磨町	20.9
	豊中市	36.1	河内町	20.6	熊取町	20.5		稲美町	15.7
	生駒市	36.0	和泉市	20.2	八幡市	20.2		加古川市	13.6
	三郷町	35.5	猪名川町	19.4	大和郡山市	19.1		淡路町	13.4
	河合町	35.4	泉大津市	18.3	磯原町	18.0		東浦町	8.3
	松原市	35.2	磯原町	18.0	泉南市	17.9		小野市	6.9
	上牧町	34.9	名張市	17.5	榎原市	17.5		御津町	43.6
	藤井寺市	33.7	阪南市	17.1	岸和田市	16.3		香寺町	39.4
峰山町	羽曳野市	33.2	田尻町	15.5	忠岡町	15.4	夢前町	36.6	
	王寺町	32.5	大和高田市	15.3	伊丹市	15.3	太崎町	35.8	
	箕面市	32.2	川西市	14.6	岬町	14.4	福崎町	24.7	
	平群町	31.9	岬町	14.4	泉佐野市	14.4	揖保川町	23.8	
	河内長野市	29.4	田原本町	14.1	広陵町	13.8	市川町	23.6	
	豊能町	29.4	加茂町	13.8	三宅町	13.7	大河内町	20.3	
	堺市	28.9	新庄町	13.7	貝塚市	13.1	龍野市	19.3	
	大阪狭山市	28.8	貝塚市	13.1	橋本町	12.8	安富町	18.0	
	斑鳩町	28.8	精華町	12.7	桜井市	12.1	新宮町	17.1	
	芦屋市	28.6					神崎町	14.4	
大 阪 市	高石市	27.9					上郡町	14.4	
	八尾市	27.8					三日月町	13.2	
	茨木市	27.6					相生市	12.3	
	池田市	27.6					南光町	11.6	
	富田林市	27.4					高砂市	10.6	
	摂津市	27.1					山崎町	8.4	
	寝屋川市	26.7					赤穂市	7.5	
	美原町	26.6					上月町	6.5	
	柏原市	26.1					生野町	5.9	
	宝塚市	26.1					佐用町	5.9	
香芝町	25.9					加西市	5.3		
川西本町	25.9					一宮町	5.0		
島本町	25.7								

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	
豊岡市	竹野町	27.4	新宮市	南部町	10.4	倉吉市	関金町	32.1	
	城崎町	20.8		中辺路町	8.5		三朝町	29.2	
	日高町	16.4		すさみ町	6.5		羽合町	28.7	
	出石町	15.7		南部川村	5.6		北条町	26.7	
	香住町	9.3		鷓殿村	24.4		東郷町	25.1	
	久美浜町	8.1		紀宝町	24.0		泊村	22.1	
	八鹿町	6.5		那智勝浦町	15.4		大栄町	16.3	
	洲本市	緑町		21.0	熊野川町		12.0	大東町	10.6
	五色町	15.3		太地町	11.7		赤碓町	7.7	
	津名町	10.8		本宮町	5.0		(島根県)		
西脇市	一宮町	5.7	御坊市	美浜町	33.7	松江市	八雲村	47.9	
	黒田庄町	21.8		日高町	23.1		鹿島町	34.8	
	中町	17.5		川辺町	22.4		玉湯町	33.4	
	加美町	12.9		印南町	12.2		島根町	32.8	
△三田市	八千代町	12.7	由良町	12.1	東出雲町	31.3			
	今田町	11.6	中津村	11.9	宍道町	26.6			
	丹南町	8.8	美山	5.7	美保関町	17.3			
△三原町	吉川町	8.8	(鳥取県)		八束町	17.1			
	西南淡野町	11.3	鳥取市	国府町	51.5	加茂町	14.4		
△社町	南淡野町	9.6		福部村	38.8	大東町	14.1		
(奈良県)	東条町	11.4		船岡町	36.1	大木次町	7.6		
	都祁村	9.5		河原町	33.8	湖陵町	39.0		
	△天理市	岩出町		32.8	気高町	33.6	大社町	26.7	
		貴志川町		31.5	岩美町	32.6	多伎町	25.8	
		海南市		21.3	八東町	31.4	斐川町	20.6	
		打田町		19.6	用瀬町	28.5	佐田町	17.3	
		桃山町		19.1	鹿野町	27.1	平田市	13.0	
		下津町		13.4	若桜町	26.6	三刀屋町	7.2	
		那賀町	13.3	青谷町	22.9	金城町	23.6		
		粉河町	13.3	佐治村	20.1	三隅村	17.7		
野上町		12.6	智頭町	15.8	弥栄村	10.4			
有田市		8.8	日吉津村	12.3	江津市	10.2			
田辺市	湯浅町	6.8	会見町	53.1	益田市	旭都町	6.2		
	美里町	6.5	西伯町	42.8		美都町	19.0		
	吉備町	6.4	岸本町	38.7		日原町	16.6		
	かつらぎ町	6.2	淀江町	38.6		田万川町	10.8		
	広川町	5.0	大山口町	37.5		伯太町	21.5		
	上富田町	21.0	瀧口町	27.2		広瀬町	16.6		
	大塔村	14.2	大山町	25.7		(岡山県)			
	白浜町	13.0	名和町	23.4		岡山市	山陽町	40.1	
	日置川町	12.8	境港市	16.4			瀬戸町	35.0	
			江府町	15.9			御津町	31.5	
		中山町	13.8	早島町	30.2				
		日野町	11.9			久	27.8		

中心都市	圏域市町村	中心部への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心部への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心部への通勤・通学率(S.60)	
△倉敷市	長船町	24.9	高梁市 (広島県) 広島市	有漢町	14.6	△尾道市 △府中市 三次市	竹原市	7.2	
	赤坂町	23.4		成羽町	11.3		向島市	32.1	
	建部町	23.2		賀陽町	5.8		新御調町	18.9	
	熊山町	22.1		府中町	51.2		君田村	14.8	
	牛窓町	21.0		廿日市	46.7		布野村	30.7	
	和気町	15.4		坂田市	42.6		三良坂町	30.1	
	総社市	14.9		海田町	38.3		口和町	19.6	
	備前市	12.0		湯来町	31.5		作木村	18.0	
	吉永町	11.6		大野町	30.5		吉舎町	16.5	
	玉野市	11.0		熊野町	24.4		高宮町	11.6	
	佐伯町	10.4		冲美町	22.9		三和町	7.4	
	吉井町	7.9		八千代町	21.5		生名村	6.5	
	日生町	7.1		能美町	20.8		弓削町	48.3	
	加茂川町	6.4		佐伯町	19.9		岩城村	23.5	
	津山市	船穂町		39.9	向原町		16.5	瀬戸田町	11.7
		真備町		35.7	宮島町		15.1	西城町	9.4
		清音村		33.1	東広島市		14.1	比和町	12.2
		金光町		32.5	大竹市		13.8	総領町	11.3
		山手村		28.6	豊平町		13.5	豊浦町	8.8
		鴨方町		20.7	江田島町		12.3	菊川町	34.4
灘崎町		19.6	加計町	11.7	豊田町	31.6			
寄島町		13.5	千代田町	10.0	山陽町	12.6			
里庄町		12.3	河内町	8.3	豊北町	11.4			
矢掛町		10.7	甲田町	8.3	阿知須町	11.2			
新見市	鏡野町	29.5	福山市	吉田町	7.7	字部市	小野田市	30.0	
	久米町	27.3		神辺町	40.8		楠町	22.4	
	勝北町	26.5		沼隈町	23.7		新南陽市	18.9	
	加茂町	25.4		笠岡市	14.9		熊毛町	25.8	
	中央町	22.5		内海町	10.1		下松市	22.3	
	細原町	18.5		井原市	9.8		鹿野町	18.8	
	阿波村	18.4		芳井町	7.2		大和町	15.5	
	勝央町	14.6		三音戸町	6.6		光市	8.4	
	奥津町	13.1		下蒲刈町	42.6		小郡町	7.5	
	奈義町	12.6		川尻町	38.1		旭村	19.1	
久米南町	12.4	安浦町	32.3	阿東町	14.4				
美作町	8.1	黒瀬町	24.3	由宇町	13.7				
旭田町	6.6	蒲刈町	24.0	玖珂町	9.1				
勝田村	5.9	倉橋町	21.8	和美町	29.7				
富世町	5.7	大布町	16.1	和木町	24.6				
久神町	5.2	安芸津町	12.9	美川町	24.6				
神郷多町	34.1	本郷町	8.2	周東町	22.2				
哲佐町	29.5	久井町	25.5	和美和町	14.0				
大西町	17.3		14.9		9.7				
哲西町	12.6								

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)		
防府市	本郷村	9.6	臨町	山城町	14.1	(愛媛県)	三野町	7.3		
	錦町	7.5		三加茂町	12.0		松山市	砥部町	41.1	
	秋穂町	20.2		三野町	7.4			松前町	40.5	
	徳地町	13.5		西祖谷山村	5.6			重信町	35.5	
	大島町	21.4		穴吹町	12.9			伊予市	28.5	
	平生町	16.7		美馬町	8.4			北条市	27.6	
	田布施町	11.6		阿波町	6.6			川内町	26.1	
	大島町	7.4		貞光町	6.2			双海町	19.7	
	上関町	6.8		(香川県)	香川町			51.3	中山町	8.4
	福栄村	25.4		高松市	牟礼町			45.9	広田村	5.6
川上村	23.6	国分寺町	43.5	今治市	玉川町	42.7				
阿武町	20.5	香南町	40.7		波方町	37.1				
須佐町	6.8	綾南町	36.4		朝倉村	36.9				
むつみ村	5.7	三木町	35.9		大西町	28.7				
三隅町	28.8	志度町	27.0		大菊間町	16.7				
日置町	23.6	庵治町	26.4		吉海町	11.8				
油谷町	12.5	長尾町	25.6		東予市	9.3				
秋芳町	9.7	塩江町	25.4		関前村	9.1				
(徳島県)			綾上町		25.2	新居浜市				
徳島市	北島町	38.4	寒川町		21.5	宇和島市	三間町	28.4		
	藍住町	30.9	津田町	18.9		広見町	15.3			
	石井町	29.3	大川町	16.3		松野町	13.8			
	佐那河内村	27.1	綾歌町	13.8		吉田町	11.7			
	松茂町	23.8	坂出市	10.6		津島町	9.0			
	小松島市	22.2	大内町	10.0	伊予三島市	土居町	16.1			
	鴨島町	19.7	白鳥町	7.0			川之江市	13.6		
	神山町	17.7	引田町	6.0			新宮村	12.0		
	板野町	17.6	多度津町	16.1		△西条市	小松町	16.7		
	川島町	16.3	宇多津町	14.0				丹原町	5.6	
	上板町	15.8	善通寺市	11.6			八幡浜市	保内町	20.5	
	勝浦町	14.5	飯山町	9.9					三瓶町	7.9
	吉野町	13.1	高濃町	8.8					伊方町	7.1
	山川町	12.1	琴平町	8.1				大洲市	五十崎町	12.7
	鳴門市	11.9	琴南町	7.8						長浜町
	土成町	9.1	仲南町	6.9					肱川町	8.8
	市場町	7.3	詫間町	6.1					内子町	7.5
△阿南市	羽ノ浦町	18.7	豊中町	18.0	(高知県)				河辺村	5.6
	那賀川町	18.4	山本町	17.3		高知市			伊野町	36.3
	由岐町	13.7	大野原町	16.6						春野町
	鷺敷町	13.1	豊浜町	14.1					鏡村	33.2
	日和佐町	7.1	仁尾町	12.7					日高村	27.0
	相生町	6.4	財田町	9.3					土佐山村	26.8
	相井川町	22.0	高瀬町	8.2						
	池田町	三好町	15.4							

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60) %
中村市	南国市	26.7	北九州市	玄海町	12.9	△飯塚市	庄内町	32.9
	野市町	20.9		玄鳥栖市	10.1		穂波町	32.7
	土佐山田町	20.6		若宮町	6.4		頼田町	25.4
	赤岡町	19.6		大島村	6.0		福築町	22.2
	吉川村	18.6		中間市	50.3		桂川町	21.6
	佐川町	18.4		水巻町	50.1		筑穂町	18.9
	土佐市	16.5		遠賀町	44.3		小竹町	16.8
	夜須町	14.9		岡垣町	39.4		碓井町	16.6
	香我美町	12.7		芦屋町	31.7		嘉穂町	15.8
	香北町	10.2		荻田町	23.2		山田市	11.7
	越知町	9.4		行橋市	20.1		糸田町	29.8
	吾北村	8.8		鞍手町	20.0		大任町	26.3
	芸西村	8.2		椎田町	16.0		大香町	23.1
	大豊町	7.5		直方市	15.8		川崎町	21.5
	本山町	5.3		築城町	15.0		赤村	19.1
	大方町	20.3		豊津町	14.7		金田町	18.2
	三原村	8.6		勝山町	14.4		方城町	17.3
佐賀町	5.1	犀川町	14.0	添田町	17.0			
△須崎市	葉山村	25.2	宮田町	6.6	赤池町	11.5		
	中土佐町	12.7	北野町	25.5	柳川市	9.0		
	大野見村	5.1	三潑町	25.1	△甘木市	20.6		
(福岡県)			北茂安町	23.7	朝倉町	17.2		
福岡市	春日市	47.9	広川町	22.5	杷木町	5.1		
	大野城市	46.8	城島町	16.6	(佐賀県)			
	志免町	46.0	三根町	16.0	佐賀市			
	那珂川町	45.9	筑後市	13.1	大和町	39.7		
	粕屋町	44.6	大木町	12.8	東与賀町	37.0		
	新宮町	43.4	田主丸町	12.6	久保田町	30.5		
	太宰府市	42.9	大刀洗町	12.3	川副町	28.8		
	篠栗町	41.1	八女市	10.4	千代田町	26.0		
	前原町	40.1	吉井町	8.0	諸富町	25.5		
	久山町	39.6	中原町	8.0	三日月町	24.4		
	須恵町	37.7	立花町	6.5	牛津町	22.5		
	筑紫野市	36.4	三橋町	6.2	小城町	19.7		
	宇美町	34.2	浮羽町	6.1	神埼町	17.5		
	福岡間町	33.9	上黒木町	5.7	芦刈町	17.3		
	二丈町	33.5	荒尾市	5.1	富士町	15.1		
	古志町	32.3	高尾町	25.9	江北町	12.7		
	志摩町	25.9	高田町	21.8	三田川町	10.9		
	津屋崎町	25.8	南関町	12.1	多富市	10.3		
	小郡市	24.9	和町	10.0	福富町	10.2		
	小宗市	23.7	長洲町	8.9	大東町	9.6		
	夜須町	18.7	瀬高町	7.0	東背振村	9.4		
	基山町	17.6	山川町	6.4	背振村	8.5		
					白石	8.2		

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	
		%			%			%	
唐津市	上峰村	8.1	島原市	吾妻町	12.8	人吉市	竜北町	9.2	
	三瀬村	7.7		千々石町	11.5		山江村	30.2	
	北方町	6.1		大村市	6.2		球磨村	25.9	
	北波多村	34.8		大江町	28.3		相良村	19.9	
	相知町	22.2		布津町	16.1		錦町	15.2	
	浜玉町	18.8		有明町	15.7		免田町	9.4	
	肥前町	17.0		国見町	10.0		深田村	8.7	
	鎮西町	16.7		有家町	9.0		須恵村	6.0	
	玄海町	15.8		瑞穂町	6.2		湯前町	5.9	
	呼子町	14.4		(熊本県)			上村	5.8	
伊万里市	七山村	13.3	熊本市	飽田町	52.3	本渡市	岡原村	5.6	
	厳木町	8.9	嘉島町	41.8	五和町		20.6		
	福島町	16.9	益城町	40.9	新和町		16.4		
	福塩田町	15.3	北部町	39.8	有明町		14.7		
	有明町	9.2	菊陽町	39.5	栖本町		13.2		
	太良町	7.9	西合志町	38.4	苓北町		7.3		
	△有田町	西有田町	19.5	天明町	34.1		△玉名市	横島町	16.3
	(長崎県)	山内町	19.2	合志町	34.1		岱明町	15.4	
		長崎市	長与町	52.4	富合町		34.0	玉東町	15.0
			香焼町	50.3	城南町		29.6	天水町	11.2
三和町			48.8	御船町	26.0	菊花水町	9.7		
伊王島町			37.2	河内町	19.7	鹿央町	12.8		
時津町			36.9	甲佐町	19.6	鹿北町	12.4		
多良見町			26.6	宇土市	19.2	鹿本町	12.2		
琴海町			22.9	植木町	17.4	菊花鹿町	9.7		
野母崎町			21.8	不知火町	16.0	三加和町	9.1		
外海町			8.0	西原村	15.7	津奈木町	23.8		
佐世保市	佐々町		29.8	西水町	15.7	芦北町	7.1		
	世知原町	19.5	松橋町	14.4	△菊池市	七城町	12.9		
	小佐々町	16.3	大津町	14.2	(大分県)	旭志村	9.4		
	吉井町	14.8	豊野村	11.1	大分市	野津原町	46.7		
	川棚町	13.1	小川町	10.9		挾間町	41.6		
	西海町	10.4	砥用町	10.2		犬飼町	28.2		
	江迎町	10.2	久木野村	9.7		佐賀関町	27.6		
	波佐見町	7.5	長陽村	9.2		庄内町	24.9		
	鹿町町	6.6	中央町	8.9		野津町	13.5		
	西彼町	6.0	三角町	7.9		千歳村	11.9		
東彼杵町	5.4	白水村	6.3	別府市		11.5			
△諫早市	森山町	29.5	白坂本村	35.0		三重町	10.5		
	高来町	26.0	千丁町	21.1		日出町	10.2		
	飯盛町	18.8	宮原町	16.9	清川村	8.8			
	小長井町	15.5	鏡浦町	10.5	湯布院町	8.8			
	愛野町	15.3	東陽村	9.7	白杵市	8.3			

中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)	中心都市	圏域市町村	中心都市への通勤・通学率(S.60)		
		%			%			%		
中津市	朝地町	6.4	日向市	東郷町	23.2	△指宿市	阿久根市	6.2		
	大野町	6.1		門川町	19.5		山川町	12.1		
	三光村	34.3		西郷村	9.4		開聞町	10.4		
	本耶馬溪町	26.0		小林市	高原町		16.8	金峰町	14.4	
	吉富町	25.4		須木村	14.0		大浦町	10.3		
	大平村	21.6		野尻町	10.2		大笠沙町	9.0		
	耶馬溪町	14.6		えびの市	8.0		有明町	8.9		
	新吉富村	14.3		日南市	北郷町		25.5	大崎町	5.8	
	山国町	8.5		南郷町	17.6		大松山町	5.3		
	宇佐市	8.4		△高鍋町	木城町		17.5	鶴田町	23.3	
日田市	豊前市	8.0	川南町	8.2	宮之城町	薩摩町	13.7			
	大山町	31.3	都農町	5.6		祁答院町	12.1			
	前津江村	30.4	(鹿児島県)			(沖縄県)				
	天瀬町	25.2	鹿児島市	松元町			40.2	那覇市	豊見城村	40.4
	宝珠山村	14.3	桜島町	38.6			南風原町	33.5		
	上津江村	10.1	郡山町	37.7			浦添市	30.7		
	中津江村	8.2	吉田町	36.9			東風平町	26.7		
	佐伯市	弥生町	38.4	喜入町			29.5	大里村	26.2	
		直川村	33.1	始良町			25.4	与那原町	24.1	
		本匠村	29.2	伊集院町			22.7	西原町	23.8	
上浦町		27.8	吹上町	13.2	糸満市		22.3			
米水津村		22.9	東市来町	13.1	佐敷町		21.9			
鶴見町		20.0	加治木町	12.2	具志頭村	20.6				
宇目町		9.1	日吉町	12.0	玉城村	20.3				
蒲江町		7.0	蒲生町	10.3	知念村	16.3				
(宮崎県)				市来町	8.9	宜野湾市	15.7			
		宮崎市	清武町	29.1	垂水市	7.0	中城村	8.8		
	佐土原町		26.7	川辺町	5.8	北中城村	19.5			
	高岡町		24.6	鹿屋市	吾平町	23.1	北谷町	18.1		
	国富町		21.4	高山町	15.4	具志川市	16.1			
	田野町		19.5	串良町	15.3	勝連町	11.0			
	綾町		15.3	東串良町	8.6	与那城村	10.7			
	新富町		8.4	大根占町	8.3	嘉手納町	9.8			
	西都市		7.6	輝北町	5.3	読谷村	9.3			
	三股町		34.7	川内市	東郷町	29.9	石川市	7.6		
山田町	26.0		樋脇町	13.8	名護市	今帰仁村	15.2			
山之口町	24.4	串木野市	8.6	本部町		11.9				
高城町	22.0	入来町	6.3	大宜味村		9.0				
高財部町	13.9	隼人町	20.9	宜野座村		8.9				
高末吉町	9.9	霧島町	13.5	平良市		上野村	27.6			
延岡市	北川町	36.3	高尾野町			20.3	城辺町	24.1		
北	方町	21.9	野田町			15.1	下地町	22.0		
						伊良部町	13.9			

表2. 中心都市の人口規模と圏域市町村

中心都市の人口規模	中心都市数	中心市への通勤・通学率15%以上の市町村数		中心市への通勤・通学率5%以上15%未満の市町村数		合計	1都市平均圏域市町村数
		数	百分比	数	百分比		
500万以上	1	100	70.9	41	29.1	141	141.0
200万以上500万未満	2	106	72.1	41	27.9	147	73.5
100万以上200万未満	6	66	63.5	38	36.5	104	17.3
50万以上100万未満	5	60	58.3	43	41.7	103	20.6
20万以上50万未満	46	305	55.1	249	44.9	554	12.0
10万以上20万未満	47	199	57.7	146	42.3	345	7.3
5万以上10万未満	71	195	49.7	197	50.3	392	5.5
5万未満	118	143	34.6	270	65.4	413	3.5
合計	296	1,174	53.4	1,025	46.6	2,199	7.4

II. 適正な通勤・通学圏とは

何%以上の通勤・通学率をもつ市町村の圏域をもって、最も適当な有意の通勤・通学圏とみなすかについては、いろいろ議論されているところであるが、ここでは、一応15%以上の第1次圏と5%以上の第2次圏の2本立てによって統計値を整理してみた。一般に大都市での通勤・通学圏は可成高い値（通勤・通学率15～20%程度）で考えられており、一方、地方の小都市のそれは低い値（5～10%程度）に基準を設定しないと、都市間に通勤・通学圏の広い空白部が生れてしまい、都市圏としての意味をなさないことになる。そこで、表2によっても示されたとおり、全国的に大小の中心都市の通勤・通学圏を考察する場合には第1次圏、第2次圏の2本立てで進めてゆく必要があると考えられる。地図上に通勤・通学圏を描入した結果では、第2次圏（広義の通勤・通学圏）の下限値は5%位が最も適当であろうということが判る。

では、高い方（第1次圏）の下限値は何%とするのが最も適当であろうか。それを考察し、併せて正しい都市規模を知るために、一つの試算を行ってみた。その方法は、各中心都市の通勤・通学圏毎に、含まれる各市町村の人口に中心都市への通勤・通学率のランクによって一定の係数を掛けて、全域分を合算し、通勤・通学率にもとづく中心都市の総合規模を算出するものである。即ち、中心都市については係数1.0を、準中心都市と40%以上の通勤・通学率をもつ市町村は0.9を、30%以上の市町村は0.8を、20%以上は0.7を、15%以上は0.6を、10%以上は0.5を、7%以上は0.4を、5%以上は0.3を各市町村の人口数に乗じて、合算すれば、総合的に圏域人口の実質規模をマクロ的に計ることができる。この圏域人口は全国計で約9,054万人となり、15%通勤・通学圏による第1次圏の人口計9,531万人にやや近い値となる。

この総合圏域人口規模の9,054万人を一応の目安とすれば、第1次圏下限値のパーセンテージは20%よりはかなり小さく、15%よりはやや大きい値となる。そこで、一応15%をもって第1次圏（狭義の通勤・通学圏）の圏域下限値とすれば、大都市の場合についてもある程度の意味をもたせることが出来そうである。

Ⅲ. 第1次、第2次の通勤・通学圏による各都市圏の考察

表3は主要中心都市(含.準中心都市)の通勤・通学圏域一覧統計表である。それぞれの項目別にてゆこう。

1. 面積

全国296都市の通勤・通学圏面積は第1次圏(通勤・通学率15%以上)で138,332㎢、第2次圏(同5%以上)で235,634㎢である。これは国土総面積377,801㎢のそれぞれ36.6%と62.4%にあたり、5%圏域は15%圏域の約1.7倍の広さになる。本来の通勤・通学圏は第1次圏とみなしてよく、第2次圏は通勤・通学指標による広域都市圏的な意味合いが強いとってよからう。

個々の都市別に見ると、第1次、第2次圏共、圏域面積の広いものは、神戸、北九州、福岡を除く、札幌、仙台、東京、名古屋、京都、大阪、広島の大7中心都市と、行政面積単位の広大な過疎圏域からなる旭川、釧路、帯広、盛岡、高山などの都市圏域である。とくに帯広圏の面積は札幌のそれをしのぎ、東京、大阪に次ぐ広さをもつ。一方、関東平野の境、筑紫平野の大川など、第1次圏、第2次圏共に全国平均の1割にも満たない小面積の都市圏もある。

表4-1は中心都市の人口規模と圏域面積の関係を示すもので、人口規模が大きいほど圏域面積も大きくなる傾向にあるが、人口規模の9ランクは面積規模では概ね5ランク(人口500万、100万、20万、5万を境とする)に集約分類されるといってよい。

表4-2は10大中心都市の第1次通勤・通学圏の範囲を主要鉄道路線の駅名で示したものである。

表3. 主要中心都市の通勤・通学圏域一覧

(注) 1. 表中△は準中心都市を示す。
2. 表中▲は人口減少を示す。

中心都市	面積(S.60)		人口(S.60)		人口密度(S.60)		人口増減率(S.55-60)		圏域人口 (総合) (S.60)	対中心市 域人口比
	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏		
(北海道)	㎢	㎢	千人	千人	人/㎢	人/㎢	%	%	千人	倍
札幌	1,548	3,087	1,716	2,044	1,109	662	10.3	8.5	1,836	1.19
旭川	1,503	2,423	399	418	265	173	2.6	2.2	397	1.09
函館	1,015	1,296	387	402	381	310	0.2	▲0.0	380	1.19
釧路	1,243	2,955	245	259	197	88	0.9	0.6	242	1.13
帯広	1,937	3,262	235	271	121	83	6.0	5.0	227	1.39
室蘭	295	464	195	229	659	494	▲5.9	▲5.0	200	1.47
苫小牧	562	1,797	158	209	281	116	4.0	2.5	180	1.14
北見	578	1,861	113	139	195	75	4.1	1.9	122	1.14
千歳	594	594	74	74	124	124	10.2	10.2	74	1.00
滝川	616	808	61	65	99	81	0.8	0.7	60	1.16
砂川	78	260	25	53	318	202	▲2.1	▲4.4	38	1.52
美唄	275	275	37	37	136	136	▲3.0	▲3.0	37	1.00
(青森)										
青森	1,042	1,289	319	346	306	268	1.8	1.6	323	1.10

中心都市	面積 (S.60)		人口 (S.60)		人口密度 (S.60)		人口増減率 (S55-60)		圏域人口 (総合) (S.60)	対中心市 域人口比
	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏		
	km ²	km ²	千人	千人	人/km ²	人/km ²	%	%	千人	倍
八戸	881	1,119	333	358	377	320	1.4	1.1	311	1.29
弘前	1,341	1,600	277	336	207	210	▲0.4	▲0.6	265	1.51
五所川原	182	531	55	119	300	224	▲1.7	▲2.6	80	1.62
十和田	690	1,109	69	102	100	92	3.1	2.1	79	1.30
むつ	778	1,355	71	92	91	68	1.1	▲0.2	71	1.43
三沢	121	240	41	52	343	216	3.7	3.0	47	1.13
(岩手)										
盛岡	1,744	2,744	357	432	205	157	6.6	5.5	361	1.53
水沢	393	1,007	75	143	191	142	3.2	2.2	102	1.78
一関	471	975	71	117	150	120	1.7	0.6	90	1.48
△花巻	503	1,073	87	113	172	105	1.8	0.7	83	1.19
宮古	700	1,527	72	102	103	67	▲1.5	▲2.2	80	1.29
北上	437	742	80	85	183	115	4.7	4.2	76	1.33
釜石	645	645	80	80	125	125	▲7.3	▲7.3	74	1.24
大船渡	325	892	49	86	151	97	▲2.2	▲2.7	60	1.53
久慈	406	908	45	60	110	66	0.5	▲0.4	52	1.32
二戸	238	678	31	59	128	87	0.6	▲1.2	41	1.35
(宮城)										
仙台	1,422	2,847	1,231	1,445	866	507	7.4	6.7	1,197	1.71
石巻	447	741	200	234	446	316	1.8	0.9	190	1.55
古川	180	1,340	69	178	386	133	5.9	2.1	114	1.87
気仙沼	333	471	91	105	274	222	▲0.8	▲1.0	93	1.37
迫	171	433	50	86	291	198	1.2	0.5	54	2.38
築館	182	639	36	70	199	110	1.1	▲0.1	40	2.33
(秋田)										
秋田	1,637	1,874	396	442	242	236	3.0	2.2	393	1.32
能代	615	1,361	88	119	144	88	▲2.7	▲3.4	91	1.54
大館	914	914	95	95	103	103	▲1.0	▲1.0	89	1.24
本荘	507	1,023	69	114	136	111	2.2	1.6	78	1.75
横手	405	695	72	113	177	162	▲1.3	▲1.1	76	1.76
大曲	169	698	56	100	333	143	▲0.4	▲0.5	72	1.72
湯沢	200	1,264	37	105	185	83	▲1.9	▲1.9	68	1.84
角館	158	1,175	17	51	106	44	▲1.5	▲1.8	32	1.95
△鷹巣	325	779	25	44	76	56	▲1.8	▲2.6	30	1.21
(山形)										
山形	828	1,970	365	524	440	266	3.2	2.6	390	1.59
酒田	870	1,062	163	172	188	162	▲1.3	▲1.3	148	1.46
鶴岡	1,087	1,342	148	161	136	120	0.1	▲0.4	140	1.39
米沢	549	1,058	94	181	171	171	1.0	0.7	133	1.42
新庄	1,476	1,806	91	104	61	57	▲0.9	▲0.9	78	1.81
長井	544	701	44	62	80	89	0.3	▲0.3	49	1.46
(福島)										
郡山	842	1,534	341	471	404	307	4.9	3.9	385	1.28
いわき	1,288	1,393	356	364	276	262	2.4	2.4	358	1.02

中心都市	面積 (S.60)		人口 (S.60)		人口密度 (S.60)		人口増減率 (S.55~60)		圏域人口 (総合) (S.60)	対中心市 域人口比
	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏		
	km ²	km ²	千人	千人	人/km ²	人/km ²	%	%	千人	倍
福 島	899	1,240	340	401	378	323	2.5	2.0	348	1.29
会津若松	705	1,725	171	228	242	132	2.2	0.7	182	1.54
白 河	492	612	77	106	157	173	5.8	5.3	78	1.75
原 町	307	399	62	77	251	193	4.4	3.8	66	1.35
△喜多方	586	1,087	56	75	96	69	0.4	▲1.3	53	1.42
△二本松	174	345	46	67	266	195	1.8	0.7	48	1.38
石 川	116	421	22	46	187	109	▲0.0	▲0.0	31	1.44
棚 倉	159	658	17	50	104	76	2.5	0.8	30	1.84
(茨 城)										
水 戸	687	1,233	506	639	737	519	6.5	5.2	470	2.05
日 立	751	953	371	383	494	402	2.8	2.5	317	1.54
△土 浦	356	1,034	208	470	584	454	7.4	8.4	276	2.30
下 館	122	384	81	167	660	434	4.1	2.9	112	1.75
鹿 島	156	425	80	159	511	374	8.0	4.7	99	2.31
水 海	80	249	42	117	524	469	3.2	4.5	67	1.60
神 栖	150	150	73	73	484	484	7.7	7.7	58	1.60
下 妻	81	139	42	66	512	472	5.5	5.4	48	1.46
鉾 田	107	290	28	64	261	221	2.2	2.3	40	1.42
境	46	78	26	42	569	535	2.3	3.1	32	1.24
(栃 木)										
宇 都 宮	610	1,695	505	782	827	461	7.0	5.8	613	1.51
小 山	194	291	148	212	763	730	5.3	5.3	174	1.29
足 利	178	178	168	168	944	944	1.1	1.1	168	1.00
△佐 野	271	470	111	165	409	352	2.5	1.5	117	1.45
栃 木	153	402	100	144	656	359	1.2	2.5	116	1.34
大 田	226	413	87	106	386	256	7.1	5.7	81	1.64
△真 岡	167	257	75	98	447	382	6.6	6.4	74	1.29
黒 磯	343	716	50	77	145	107	6.8	4.3	63	1.27
△矢 板	170	345	35	50	203	144	5.6	4.3	37	1.08
△烏 山	92	366	22	50	234	136	▲0.2	▲0.6	31	1.42
日 光	321	321	22	22	68	68	▲9.1	▲9.1	22	1.00
(群 馬)										
高 崎	428	887	364	479	849	540	4.9	4.8	375	1.62
前 橋	379	611	358	437	944	714	4.8	4.1	370	1.33
桐 生	478	499	194	208	405	418	0.9	1.5	180	1.37
太 田	155	173	175	211	1,129	1,217	8.1	9.2	177	1.32
△伊勢崎	116	140	157	169	1,356	1,203	5.8	6.0	135	1.20
館 林	80	174	85	137	1,067	789	6.5	6.4	106	1.41
沼 田	385	1,439	74	100	191	70	0.2	▲1.6	74	1.58
△富 岡	300	490	73	87	243	178	▲0.2	▲1.3	65	1.35
(埼 玉)										
△熊 谷	151	428	177	434	1,174	1,012	4.8	7.1	263	1.83
秩 父	294	893	90	124	306	139	0.2	▲0.2	99	1.62
本 庄	99	176	90	120	908	683	6.9	5.9	91	1.60

中心都市	面積 (S.60)		人口 (S.60)		人口密度 (S.60)		人口増減率 (S55-60)		圏域人口 (総合) (S.60)	対中心市 域人口比
	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏		
	km ²	km ²	千人	千人	人/km ²	人/km ²	%	%	千人	倍
甲府	428	2,135	349	594	816	278	7.2	4.6	425	2.10
富士吉田 (長野)	257	560	85	125	330	224	3.9	3.2	87	1.58
長野	1,288	1,545	496	538	385	348	3.0	2.7	467	1.38
松本	1,159	1,912	380	405	328	212	3.9	3.6	332	1.68
上田	611	1,028	181	224	296	217	3.6	3.0	179	1.54
飯田	665	1,135	144	171	216	151	1.6	1.1	141	1.52
諏訪	376	563	100	121	265	214	5.4	5.2	91	1.73
岡谷	152	322	88	112	583	349	▲0.5	▲0.4	90	1.45
佐久	465	848	90	117	195	139	3.0	1.8	89	1.48
伊那	709	795	80	101	113	128	4.8	5.6	84	1.43
△中野	344	442	59	65	172	147	1.4	1.1	49	1.22
小諸	94	156	44	55	465	353	3.2	5.3	48	1.10
△駒ヶ根	308	385	51	57	165	147	▲3.5	3.2	43	1.31
△大町 (岐阜)	565	795	35	51	63	65	▲1.7	1.0	38	1.16
岐阜	515	1,392	713	899	1,386	646	3.3	3.6	688	1.67
△大垣	305	653	271	320	889	490	3.2	2.7	235	1.61
高山	1,261	2,434	106	116	84	48	1.8	1.0	96	1.48
中津川	445	769	70	122	157	158	1.1	1.1	85	1.60
美濃加茂 (静岡)	117	368	52	89	447	241	4.6	3.8	64	1.53
静岡	1,199	1,860	481	1,071	401	576	2.4	2.7	749	1.60
浜松	532	834	704	839	1,325	1,007	5.3	5.2	721	1.40
沼津	322	501	315	478	978	953	4.0	4.9	359	1.70
富士	635	851	354	381	557	448	3.9	3.3	310	1.45
△袋井	79	427	49	152	628	356	6.4	6.2	82	1.66
△湖西	68	137	58	75	862	545	7.3	6.1	52	1.26
熱海	62	62	49	49	791	791	▲1.4	▲1.4	49	1.00
下田	215	394	42	68	194	173	▲2.2	▲1.7	47	1.55
榛原	53	131	24	74	458	561	3.8	4.8	44	1.80
浜岡	54	96	22	47	411	484	11.6	8.4	32	1.43
△大仁 (愛知)	44	356	15	48	347	136	3.6	1.3	29	1.90
名古屋	1,573	2,429	4,343	4,949	2,760	2,038	3.4	3.5	3,947	1.87
豊橋	269	906	342	576	1,273	635	5.7	5.2	442	1.37
豊田	737	1,178	366	659	497	560	8.8	8.6	436	1.41
△刈谷	51	115	112	258	2,215	2,241	6.4	3.7	161	1.43
△西尾	111	215	114	181	1,023	843	5.7	5.2	127	1.38
△安城 (三重)	86	86	133	133	1,553	1,553	7.4	7.4	120	0.90
△四日市	522	854	487	566	933	663	3.6	3.8	411	1.56
津	489	889	276	308	564	347	4.0	3.5	252	1.67
伊勢	384	616	160	202	417	329	1.4	1.3	157	1.49

中心都市	面積 (S.60)		人口 (S.60)		人口密度 (S.60)		人口増減率 (S.55-60)		圏域人口 (総合) (S.60)	対中心市 域人口比
	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏		
	km ²	km ²	千人	千人	人/km ²	人/km ²	%	%	千人	倍
△松阪	428	825	161	182	376	221	3.0	2.5	142	1.21
上野	450	648	88	105	196	162	0.3	1.4	85	1.40
尾鷲	342	453	42	55	123	121	▲4.9	▲4.7	41	1.38
熊野	258	395	25	36	98	91	▲3.6	▲3.5	31	1.22
△鳥羽	107	107	28	28	264	264	▲1.6	▲1.6	26	0.90
(滋賀)										
彦根	299	368	133	171	444	465	3.9	4.0	136	1.45
△長浜	207	721	99	149	480	207	1.7	1.8	102	1.83
八日市	274	352	53	82	192	233	4.7	3.9	62	1.56
水口	195	598	39	101	199	169	4.9	4.3	61	2.12
△栗東	53	53	42	42	788	788	12.9	12.9	38	0.90
甲西	55	113	30	50	534	442	22.9	15.9	38	1.27
(京都)										
京都	1,570	2,324	2,296	2,593	1,462	1,116	3.1	3.8	2,200	1.49
舞鶴	341	412	99	111	290	269	1.2	1.5	105	1.06
福知山	630	1,055	93	148	148	141	2.0	0.8	104	1.58
宮津	182	280	35	50	193	179	▲3.2	▲3.4	37	1.33
峰山	216	281	32	40	146	143	▲1.1	▲1.7	27	1.86
(大阪)										
大阪	2,761	3,794	11,028	11,566	3,994	3,048	3.1	3.1	8,815	3.34
(兵庫)										
△神戸	758	1,028	1,808	2,098	2,386	2,041	3.5	3.9	1,706	1.21
姫路	969	2,436	649	982	670	403	2.7	2.5	735	1.62
豊岡	538	898	90	131	166	146	▲0.2	▲0.4	89	1.87
洲本	211	305	61	88	287	288	0.4	0.0	66	1.49
西脇	180	317	59	73	327	230	1.0	0.8	59	1.52
△三田	212	403	41	64	192	158	11.5	7.3	46	1.14
△三原	60	203	17	52	277	256	3.3	▲0.2	31	1.85
△社	87	157	20	36	226	232	10.4	6.2	26	1.32
(奈良)										
△天理	86	130	69	75	806	576	6.5	6.1	64	0.93
(和歌山)										
和歌山	427	968	518	674	1,212	697	1.1	0.4	546	1.36
田辺	193	1,121	84	139	434	124	2.6	0.2	104	1.47
新宮	344	731	73	84	213	116	▲2.5	▲3.2	65	1.71
御坊	179	579	53	78	296	135	1.0	▲0.4	59	1.95
(鳥取)										
鳥取	1,293	1,518	235	246	181	162	2.7	2.4	218	1.59
米子	661	854	227	239	343	280	2.4	2.1	204	1.55
倉吉	637	776	101	123	158	159	1.3	1.2	96	1.83
(島根)										
松江	455	701	201	235	442	336	3.5	2.9	202	1.44
出雲	475	686	139	180	293	262	3.0	2.3	141	1.75
浜田	457	850	67	101	146	119	0.9	0.7	77	1.52

中心城市	面積 (S.60)		人口 (S.60)		人口密度 (S.60)		人口増減率 (S.55-60)		圏域人口 (総合) (S.60)	対中心市 域人口比
	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏		
	km ²	km ²	千人	千人	人/km ²	人/km ²	%	%	千人	倍
益田	603	681	63	68	105	100	1.9	1.3	62	1.15
△安来 (岡山)	395	395	50	50	125	125	0.6	0.6	40	1.22
岡山	1,098	1,939	704	898	641	463	4.7	3.6	765	1.34
△倉敷	460	571	498	533	1,083	933	3.1	2.9	452	1.09
津山	778	1,521	138	203	177	134	2.9	2.3	149	1.71
新見	718	795	40	44	56	55	▲1.9	▲1.9	38	1.36
高梁	229	485	27	45	116	94	▲2.6	▲1.3	34	1.29
(広島)										
広島	1,493	2,530	1,280	1,463	857	578	6.1	5.8	1,325	1.27
福山	451	885	414	528	917	596	4.0	2.7	457	1.27
△呉	392	484	302	328	772	677	▲1.9	▲2.0	272	1.20
三原	287	467	97	139	336	298	2.3	1.2	111	1.29
△尾道	129	129	120	120	927	927	▲1.6	▲1.6	106	1.05
△府中	165	248	72	80	435	323	▲1.6	▲1.5	62	1.29
三次	664	947	53	68	80	72	1.4	0.1	55	1.40
因島	56	99	46	61	822	612	▲3.5	▲3.0	50	1.35
△庄原 (山口)	245	673	23	34	93	50	▲0.3	▲1.8	26	1.13
下関	384	808	299	348	780	431	0.2	▲0.2	318	1.18
宇部	352	352	237	237	674	674	3.3	3.3	218	1.25
徳山	747	841	222	280	297	333	0.3	0.3	206	1.83
山口	390	948	144	165	370	174	8.1	6.4	146	1.17
岩国	359	881	141	169	392	192	▲0.5	▲1.3	145	1.30
防府	211	499	127	138	603	276	5.4	4.5	130	1.10
柳井	174	306	57	89	326	291	▲0.4	▲1.5	63	1.70
萩	446	602	63	71	142	118	▲2.5	▲2.6	62	1.18
長門	267	358	40	50	150	140	▲0.2	▲1.2	41	1.50
美祿	225	340	21	29	93	85	▲4.2	▲3.9	24	1.15
(徳島)										
徳島	638	1,029	454	568	711	552	3.5	2.9	447	1.73
△阿南	281	553	82	101	293	183	▲0.6	1.0	75	1.24
池田	266	615	33	58	125	94	▲1.5	▲1.8	40	1.92
脇	110	360	19	60	175	168	0.7	▲1.4	35	1.79
(香川)										
高松	719	994	509	628	708	632	3.6	2.8	522	1.60
△丸亀	90	393	98	218	1,094	555	4.6	2.9	132	1.77
観音寺	155	310	79	130	513	418	1.4	0.9	88	1.93
(愛媛)										
松山	800	919	572	579	714	630	5.4	5.3	542	1.27
今治	279	386	165	207	592	536	1.0	0.9	172	1.38
新居浜	161	161	132	132	823	823	▲0.1	▲0.1	132	1.00
宇和島	352	719	91	129	259	179	▲0.7	▲1.0	101	1.42
伊予三島	272	419	56	97	206	231	1.1	1.9	70	1.80

中心都市	面積 (S.60)		人口 (S.60)		人口密度 (S.60)		人口増減率 (S.55-60)		圏域人口 (総合) (S.60)	対中心市 域人口比
	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏		
	km ²	km ²	千人	千人	人/km ²	人/km ²	%	%	千人	倍
△西条	304	434	67	82	220	188	4.1	3.2	62	1.09
八幡浜	132	203	54	73	406	361	▲3.8	▲3.8	58	1.39
大洲 (高知)	241	592	40	76	166	129	3.1	▲0.7	55	1.38
高知	914	1,909	499	548	546	287	3.9	3.2	462	1.48
中村	501	661	47	54	94	82	1.2	0.9	46	1.28
△須崎	203	397	36	47	179	118	▲1.6	▲2.0	37	1.17
(福岡)										
福岡	1,236	1,438	1,907	1,984	1,543	1,380	8.4	8.2	1,813	1.56
北九州	920	1,124	1,408	1,457	1,531	1,296	0.6	0.5	1,337	1.27
△久留米	249	857	304	537	1,220	626	3.2	2.4	354	1.59
大牟田	179	355	240	323	1,340	911	▲1.0	▲0.3	247	1.55
△飯塚	362	384	204	219	564	569	2.3	1.8	166	2.03
田川	347	363	153	163	442	449	0.8	1.1	126	2.12
大川	33	71	48	93	1,428	1,299	▲3.4	▲2.5	66	1.38
△甘木 (佐賀)	223	267	66	76	295	283	1.4	1.0	57	1.30
佐賀	550	930	309	411	562	442	2.6	2.1	311	1.85
唐津	393	524	132	150	335	286	0.5	▲0.0	121	1.53
伊万里	272	272	66	66	242	242	1.0	1.0	64	1.04
鹿島	157	264	47	70	300	264	▲0.5	▲0.9	51	1.47
△有田	106	106	34	34	321	321	2.0	2.0	25	1.71
(長崎)										
長崎	447	493	556	568	1,246	1,152	2.1	2.0	541	1.20
佐世保	345	738	275	355	796	480	▲0.0	0.2	299	1.19
△諫早	287	524	125	209	437	399	4.0	4.3	131	1.49
島原 (熊本)	116	205	72	101	621	492	▲0.4	▲0.4	75	1.62
熊本	925	1,466	840	944	908	644	6.1	5.8	810	1.46
八代	330	478	130	167	394	350	▲0.1	▲0.5	141	1.30
人吉	718	925	71	96	99	104	1.3	0.7	70	1.64
本渡	251	411	61	82	241	200	0.8	1.3	64	1.51
△玉名	153	213	73	88	475	412	2.6	2.3	64	1.40
山鹿	87	359	34	70	385	194	2.5	0.2	50	1.49
水俣	199	400	42	62	214	156	▲1.6	▲2.0	49	1.33
△病池 (大分)	183	249	29	40	156	160	0.3	0.5	31	1.08
大分	737	1,764	443	700	601	397	7.0	4.0	552	1.41
中津	241	846	89	188	369	223	2.3	1.3	123	1.86
日田	495	688	81	86	163	125	0.0	▲0.3	79	1.21
佐伯 (宮崎)	547	905	80	96	146	106	▲0.0	▲0.6	79	1.44
宮崎	870	1,369	378	434	434	317	5.9	5.4	369	1.32
都城	670	1,008	181	228	271	226	2.4	1.9	189	1.43

中心都市	面積 (S.60)		人口 (S.60)		人口密度 (S.60)		人口増減率 S.55-60		圏域人口 (総合) (S.60)	対中心市 域人口比
	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏		
	km ²	km ²	千人	千人	人/km ²	人/km ²	%	%	千人	倍
延岡	768	768	148	148	193	193	▲0.6	▲0.6	145	1.07
日向	456	595	84	88	185	148	1.2	0.7	77	1.29
小林	316	931	53	94	169	101	1.6	1.8	66	1.61
日南	538	538	72	72	133	133	▲1.7	▲1.7	64	1.24
△高鍋 (鹿兒島)	189	381	29	62	155	162	1.9	2.3	36	1.55
鹿兒島	705	1,351	630	743	894	550	5.4	4.3	652	1.23
鹿屋	489	688	114	136	233	198	2.7	1.4	108	1.42
川内	345	562	78	124	225	220	7.8	5.0	94	1.32
国分	190	339	71	85	374	251	12.2	10.0	69	1.68
出水	329	465	58	88	178	188	2.0	0.9	61	1.53
△指宿	78	149	33	55	424	368	0.9	▲0.7	41	1.23
加世田	94	243	26	44	274	182	1.4	▲2.3	35	1.34
志布志	139	388	20	56	145	144	▲0.7	0.3	32	1.59
宮之城 (沖繩)	222	385	25	36	111	93	▲0.5	▲1.7	29	1.47
那覇	246	261	655	665	2,662	2,547	7.9	7.8	564	1.86
△沖繩	104	204	185	274	1,779	1,346	8.8	7.6	180	1.78
名護	250	400	59	82	234	204	5.3	3.9	65	1.34
平良	164	205	50	59	301	286	▲0.3	▲0.4	49	1.47
[全都市]	138,332	235,634	95,309	114,277	689	485	4.0	3.9	90,538	1.70

表4-1 都市規模と圏域面積

圏域人口(総合)規模階級	都市数	平均面積		円圏域とみなした場合の半径	
		第1次圏	第2次圏	第1次圏	第2次圏
		km ²	km ²	km	km
1,000万以上	1	4,663	6,736	38.5	46.3
500万以上1,000万未満	1	2,761	3,794	29.7	34.8
200万 " 500万 "	2	1,572	2,377	22.4	27.5
100万 " 200万 "	6	1,230	2,009	19.8	25.3
50万 " 100万 "	16	711	1,319	15.0	20.5
20万 " 50万 "	54	729	1,183	15.2	19.4
10万 " 20万 "	57	366	676	10.8	14.7
5万 " 10万 "	97	368	632	10.8	14.2
5万未満	62	212	380	8.2	11.0
合計(平均)	296	(467)	(796)	(12.2)	(15.9)

表4-2 10大中心都市の第1次通勤・通学圏の範囲

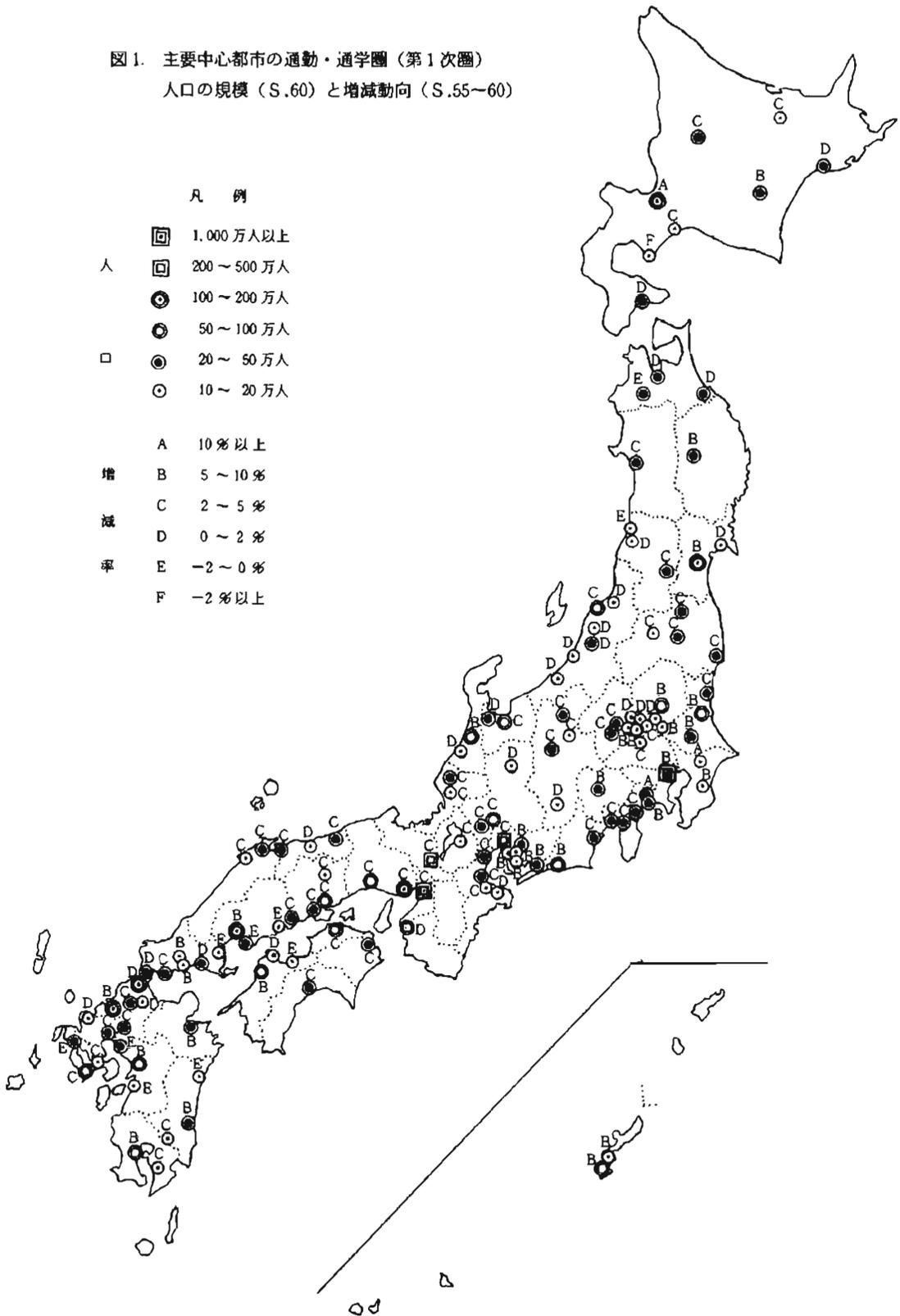
(札幌)	星置, 釜谷田, 豊幌, 北広島までの鉄道距離15~30km圏
(仙台)	坂元, 奥新川, 松山町までの鉄道距離30~40km圏
(東京)	東逗子, 茅ヶ崎, 高尾, 吹上, 栗橋, 牛久, 土気までの鉄道距離55~60km圏
(名古屋)	北大社(東員町), 木曽川堤, 明智(可児市), 定光寺, 豊明, 榑大(阿久比町)までの20~45km圏
(京都)	大山崎, 船岡, 北小松, 瀬田, 三山木(田辺町)までの20~40km圏
(大阪)	芦屋, 宝塚, 山崎, 八幡市, 奈良, 桔梗が丘, 天見(河内長野市), 箱作(阪南町)までの20~70km圏
(神戸)	土山, 三木, 三田, 摂津本山までの10~35km圏
(広島)	大野浦, 向原, 瀬野, 小屋浦までの15~40km圏
(北九州)	海老津, 直方, 椎田, 門司港までの10~40km圏
(福岡)	鹿家, 基山, 赤間までの25~40km圏

2. 人口

中心都市の第1次圏総人口は9,531万人。第2次圏は11,428万人で、それぞれ全国総人口の78.7%と94.4%にあたる高い割合を占める。(表3, 図1)

都市圏(第1次圏)別にみると、その大きいものから、Aランクは東京の2,458万人(全国総人口の20.3%), Bランクは大阪の1,103万人(全国比9.1%), Cランクはなく、Dランクは名古屋434万人(全国比3.6%), 京都の230万人(全国比1.9%)の2都市、Eランクは福岡191万人、神戸181万人、札幌172万人、北九州141万人、広島128万人、仙台123万人の6都市、Fランクは16都市で、熊本84万人、岐阜71万人、浜松、岡山70万人、新潟68万人、那覇、姫路、金沢65万人、鹿児島63万人、松山57万人、長崎56万人、和歌山、富山52万人、高松、水戸51万人、宇都宮50万人の順、またGランク(20~50万クラス)は高知など52都市、Hランク(10~20万クラス)は石巻など49都市、Iランク(5~10万クラス)は諏訪など94都市、Jランク(5万未満クラス)は魚津など75都市を数える。

図1. 主要中心都市の通勤・通学圏（第1次圏）
 人口の規模（S.60）と増減動向（S.55-60）



3. 人口密度

第1次圏の平均は689人/km²、第2次圏では485人/km²で、全国平均320人/km²のそれぞれ2.2倍と1.5倍にあたる高い密度を示す。人口密度のとくに高い圏域が集中する地域は、東京を中心とする関東西半部、名古屋を中心とする東海、大阪を中心とする近畿中部、岡山、広島を中心とする瀬戸内中部、福岡を中心とする九州北部のベルト状をなす5地域と那覇を中心とする沖縄南部地域で、km²当たり1,000人をこえる高密度圏が連続的に分布する。一方、石狩山地、北上山地、出羽山地、越後山脈、飛騨山脈、中国山地などを含む低密度地帯では100人/km²にも満たない圏域も多数みられる。

4. 人口増減率

S.55～S.60の最近5年間における人口増減率は全国平均で+3.4%であるが、通勤・通学圏域でみると第1次圏は+4.0%、第2次圏は+3.9%で、何れも全国平均をやや上まわる。なお、第2次圏域以外の非都市圏地域の平均で人口が-3.9%と減少をみたのと較べ、第1次、第2次両圏域共約+4%の増加であり、両者の間には大きな格差がみられるのが特徴的である。

次に、1、2次圏を通してみた人口増減率を地域別、都市圏別に概観する。（表3、図1参照）

北海道では、道央の札幌、千歳両圏の増加率が高く、帯広圏もやや高い。一方、鉄鋼不況の室蘭圏の減少率は著るしく、産炭地の砂川、美唄両圏でも減少をみた。

東北では、新幹線に沿う仙台と盛岡、白河3圏の増加率がやや高い。製鉄の町釜石の不況は圏域の著るしい人口減となって表われており、他に製材都市能代も減少した。主要都市では弘前と酒田が伸びなやむ。

増加率の高い関東では、東京圏の西と東の外縁部に立地する工業都市の厚木と国際空港をもつ成田両圏の伸びが著るしく、研究学園都市の土浦圏、新興工業都市の神栖、太田、君津、平塚各圏も高い伸びを示した。東京圏自体も巨大都市圏としては高い伸び率を示している。減少の著るしいのは、銅山関連企業の閉鎖をみた日光圏のみであった。

人口の安定的な北陸では、中核都市の金沢と海陸交通の要地敦賀の両圏がやや高い伸びを示した。一方、雪国の機業地十日町では減少率がやや高い。

中部では、自動車の町豊田と原発の立地した浜岡の両圏の伸びが高い。他に、東海ベルト工業地域の袋井、浜松、湖西、豊橋、西尾、安城、刈谷の各圏や中央高地の甲府、諏訪、伊那の3圏域の伸びもやや高い。中核都市名古屋の圏域は全国平均値をやや下まわる。一方、平地の乏しい熊野灘沿岸の尾鷲と熊野の圏域は減少率がやや高い。

近畿では、湖南地域に増加率の著るしい粟東、甲西2圏域がみられ、兵庫県内陸の高速道に沿う三田と社の圏域の伸びも高い。奈良県下唯一の独立的都市圏天理での伸びもやや高い方に属する。近畿の中核地京都、大阪、神戸の3大都市圏は何れも全国平均をやや下まわる伸び率にとどまっており、東京圏との伸びの格差は拡大の一途を辿っている。一方、日本海側の宮津、太平洋側の新宮などはやや減少の目立つ都市圏である。

中国地方でやや高い伸び率を示すものは、中核都市の広島をはじめ、西山陽の山口、防府の両圏域である。一方、瀬戸内海の造船の町因島圏は不況により、西山陰の旧城下町萩と炭鉱の町だった美祢の両圏ともども減少率がやや目立っている。瀬戸内海沿いの尾道、呉、岩国の停滞ぶりも顕著である。

四国でやや高い伸びを示すのは後背地の広い松山圏のみである。一方、南予の八幡浜圏

では減少率がやゝ大きい。化学工都の新居浜も伸びなやんでいる。

九州・沖縄では、最大の中心地福岡をはじめ、南九州の国分、沖縄の那覇、沖縄西圏が高い伸びを示しており、熊本、大分、宮崎、鹿児島や川内の圏域の伸びもやや高い。大工業・港湾都市として飽和点に達した北九州市の圏域はもはやその増加率がきわめて小さい。減少率の大きいのは、筑後川下流域の大川圏のみである。また、大牟田、佐世保、八代、延岡といった化学・造船工業で代表される都市圏も減少を示している。

5. 人口の規模と増減率

表5-1、表5-2はそれぞれ第1次、第2次の通勤・通学圏域による各中心都市の人口規模（S.60）と人口増減率（S.55~60）をランク別にまとめたものである。この2表によれば、都市圏（通勤・通学圏）の人口増加率の高さは、その人口規模によく相関するものであることが判る。即ち、都市圏の人口を10の階級に区分して、各階級に属する都市の平均人口増加率を算出してみると、最高値を示すのは第1次圏では100~200万人の地方広域中心都市を含む大都市Bのクラス、第2次圏では2,000万超の巨大都市A（東京）のクラスである。大都市にあっても先進性の強い中央西部の大阪、京都、神戸と名古屋の4都市は増加率がやや低い。一方、増加率の最低ランクは小都市において現われ、第1次圏で人口5万未満、第2次圏で人口10万未満の圏域である。

人口規模が小さくなるにつれて、人口減少都市数の占める割合が高くなり、5万未満の第2次圏では30都市中、18都市迄が減少を示す。このように各中心都市間にあっても、人口格差はなお増大の一途を辿っており、都市間の自然淘汰的現象が進行しつつあるといえよう。

6. 総合圏域人口

総合圏域人口の算出方法については前述したが、ここでは各地方別に都市の規模別分布状況を眺めよう。（表3右欄）

（北海道） 試算人口184万の札幌を中核として、道北の旭川、道南の函館、道東には釧路と帯広、さらには北見を配する。他に工業核心として室蘭と苫小牧をもっている。札幌以外のこれら拠点7都市圏の人口は各々12～40万人である。

（東北） 120万の仙台圏を中核として、北東に盛岡、八戸、北西に秋田、弘前、青森、南西に山形、南東に福島、郡山、いわきの中規模都市圏9がある。その下位に南東北の石巻、酒田、鶴岡、米沢、会津若松の5都市圏が分布する。

（関東） 要めをなす東京圏の試算人口は2,093万で、わが国最大の卓越した巨大都市圏である。周辺の広大な平野部にはこの東京と緊密に結び付いた中規模都市圏10が分布する。即ち、北部の宇都宮を筆頭に、北東部の土浦、水戸、日立、北西部の熊谷、高崎、前橋、南西部の厚木、平塚、小田原がそれである。これに次ぐものは、北～北西の小山、足利、桐生、太田、伊勢崎、東～南東の成田、茂原、君津の8圏である。

（北陸） 日本海に沿う細長いこの地域は、地勢上東西2つの圏域に分れるが、東は新潟、西は金沢がそれぞれ最大の中心地で、これに次ぐ規模をもつものとして、東に長岡、上越、西に富山、高岡、福井の5都市圏がある。三条と小松がこれに次ぐ。

（中部） 東海東部・西部と中央高地（甲信）の3地域から成るが、最大の中心地は名古屋で、その都市圏試算人口は395万に及び、全国第3位を誇る。次いで、静岡、浜松、岐阜の3都市圏が70万人前後の規模を有する。中規模圏は東海西部で豊橋、豊田、大垣、四日市、津、東海東部で沼津、富士、中央高地で甲府、松本、長野である。他に、伊勢、松阪、刈谷、飯田、上田がやや目立つ存在である。

（近畿） 南北に山地をもつこの地方では、おもな都市は中央部のみに集中する。即ち、東京に次いで882万の巨大都市圏人口をもつ大阪を中核として、東に220万の京都、西に171万の神戸の2大都市圏が近接し、さらに神戸の西に姫路、大阪の南に和歌山の都市圏が接続するかたちで、これら5大都市に彦根を加え、横Y字形の巨大な連続都市圏をかたちづくる。まとまった平地の少ない南と北の山岳地域では、小規模な都市圏しか存在しない。

（中国） 山陽と山陰の2地域から成るが、最大の広島（133万）とこれに次ぐ岡山は共に山陽側にある。中規模都市圏は山陽筋で倉敷、福山、呉、徳山、宇部、下関の6圏、山陰では鳥取、米子、松江の3圏である。他に、やや目立つ小規模圏として、山陽の津山、岩国、防府、山口、山陰の出雲があげられる。

（四国） 四面にそれぞれ徳島、高松、松山、高知の中核都市をもつ四国であるが、とくに際立った規模の都市はみられない。小規模都市圏では、丸亀、新居浜、今治と宇和島の4圏がやや目立つ。

（九州・沖縄） 最大の中心都市福岡（試算181万）とこれに次ぐ北九州（134万）をはじめ、都市分布は北西部に偏在するが、熊本、鹿児島や長崎、大分、那覇といった規模の大きい都市圏は分散的立地である。これに次ぐ中規模都市の久留米、大牟田、佐賀、佐世保は北西部に、宮崎は南東部に立地する。他には、北九州の中津、田川、飯塚、唐津、南九州の八代、延岡、都城と沖縄の各都市圏がおもなものである。

7. 総合圏域人口の対中心市域人口比

中心都市の総合圏域人口試算値は全国計9,054万となり、その中心市域人口5,314万に対し全都市平均で1.70倍となる。(表3最右欄)この平均値を上まわるのは、296都市中、僅かに15都市にすぎない。これは平均値を引き上げる巨大都市の影響が極端に大きく、市(区)域外都市圏人口3,740万のうち、東京1,257万と大阪618万だけで過半数に達することによるものである。

対中心市域人口比の高いおもな都市は、大阪の3.34倍、東京の2.50倍を筆頭に、2倍以上は土浦、甲府、水戸、1.7倍以上は名古屋、那覇、佐賀、徳山、熊谷、徳島、高岡、仙台、福井、沼津の商業中心各都市である。

中心市域外都市圏人口の多い都市は、上記東京、大阪の他、名古屋183万、京都72万、福岡65万、仙台50万の順で、ほかに20~30万のもの14都市、10~20万のもの28都市を数える。

IV. 主要中心都市の通勤・通学圏図

図2-1~図2-5は各地方毎の中心都市の通勤・通学圏域を市町村単位で1:250万の地図上に示したものである。この図から気の付くことを以下に記してみよう。

図2-1 北海道では、都市の分布密度の低さを反映する閑散とした姿をみせ、道北、道南各1、道東は3のみで、札幌を中央に滝川から室蘭迄の道央に7都市圏が集中する。第2次圏1つ当たりの平均面積は1,590㎢で、全国平均の2倍に達する。北海道では第2次の通勤・通学圏総面積は全道面積の23%(全国は62%)にすぎない。胴体部や渡島半島部には広大な非都市(通勤・通学)圏地域が広がる。各圏域内における中心都市の位置は中央附近にあるのが最も一般的であるが、地勢のほか、交通、都市分布などの条件によって例外的なパターンを示すものも多い。中心都市に対して旭川は東へ、滝川、北見、釧路は西へ、札幌は北へと圏域が偏って広がる。

図2-2 東北では、都市分布が平均的な分散をみる。非都市圏域は、北部の奥羽山脈や北上山地、南部の阿武隈山地、越後山脈(奥会津)に広がるが、その面積比率は22%と低い。東北では内陸盆地が縦2列に発達した地勢をもつためである。都市圏は人口的には小規模なものが多いが、1都市圏の平均面積は全国平均を上まわる。圏域の平面形が中心都市の位置に対して偏位するものは、石川、新潟、三条が東に、北上、古川、蕨が西に、本荘、鶴岡、棚倉が南に、角館が北にそれぞれ延伸している。

図2-3 関東・中部では、まず関東であるが、全国最大の面積をもつ東京圏(半径40~65kmの円形)を除き、多数の小面積圏域が存在する。とくに、北西部両毛地域の13の中心都市はまれにみる高密度分布を示す。関東の都市圏域面積率は全国最高の83%に達し、非都市圏は北部と西部の山地部を中心にややまとまって見られるにすぎない。第2次圏の都市別平均面積は四国、九州とならんで小さい。中心都市に対する圏域の偏位するものは、下館が東へ、下妻、富岡、厚木が西へ、茂原が南へ、烏山と桐生は北へと伸びる。

次に中部であるが、中心都市の分布は北陸、東海の沿岸部と名古屋と上越市を結ぶ縦列の計3列の分布がみられる。地域全体としてみると、近畿、中国と共に都市圏面積率は全国平均よりかなり高く(75%)、第2次圏1つ当たりの平均面積は全国平均程度である。非都市圏域は佐渡島、能登半島、飛騨山地、赤石山地などにまとまった広がりを見せる。中心都市に対する圏域の平面形態は、魚津、中野、諏訪が東へ、敦賀、大垣が西へ、十日町、富山、小松、武生、上田、大仁が南へ、富士が北へと偏位する。名古屋圏は都心から15~

50kmの三角形の圏域で、とりわけ北東方へ伸び出している。

図2-4 近畿・中国・四国のうち、まず近畿であるが、都市圏分布は中部を中心に、北部と南部にそれぞれ山地で分断されて立地する。そして、北には東西に細長い丹波山地の、南には塊状の紀伊山地の非都市圏域（全体の26%を占める）がそれぞれ介在する。核心をなす大阪圏は都心から20~60kmにわたる三角形をなし、東方は三重県域に迄延伸する。なお、神戸市は大阪市に対して7%の通勤・通学率があるため中心都市に準ずる都市とみなされる。また、京阪神を合せた圏域面積は1、2次圏共東京のそれを上まわる。中心都市に対する圏域の平面形態としては、八日市、天理、田辺が東に、津、松阪が西に、伊勢が南に、長浜、姫路が北に伸びた形をとる。

中国地方では、平均的な都市分布がみられるとあってよい。非都市圏域（24%）は中国山地中・西部と吉備高原西部とにみられる。中心都市に対する圏域の平面形態は、呉、萩が東へ、三原、岩国が西へ、鳥取、安来、柳井が南へと伸び出す。

四国は都市圏立地が北半に偏りをみせる。第2次圏面積率は北海道を除き最も低く、59%に過ぎない。非都市圏域は四国山地の東部と西部に分断されて共に大きな広がりをもつ1都市圏当りの平均面積も関東、九州とならんで最低位にある。都市と圏域の位置関係では、徳島、阿南、西条は西に、丸亀は南に伸びた形をとる。

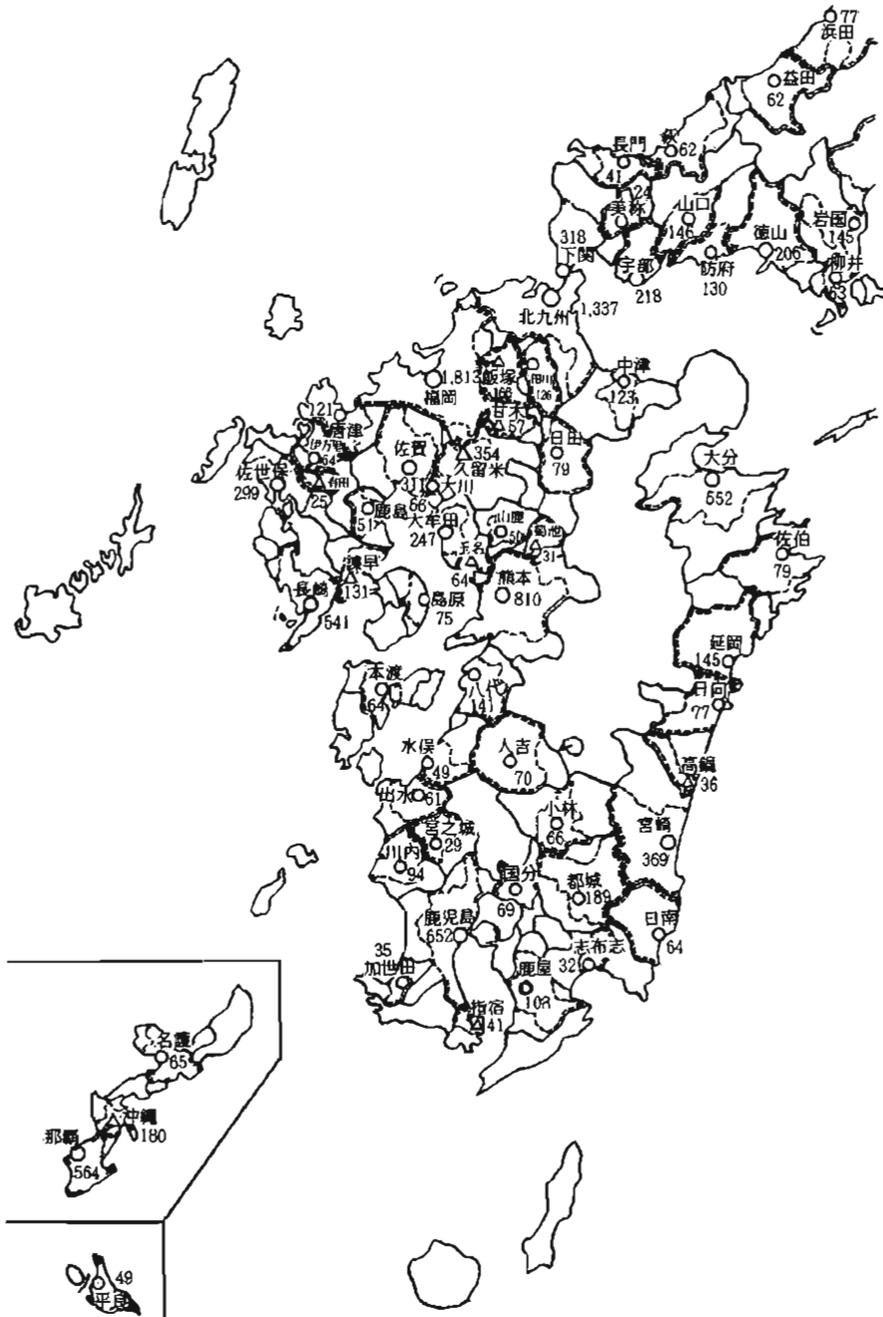
図2-5 九州では、都市圏面積比は66%で全国平均をやや上まわるが、1都市圏当りの面積は全国最低で、小規模圏の卓越する地域とあってよい。非都市圏域は中央部の九州山地に大きく、他に島しょ部の殆どが含まれる。都市と圏域の位置関係では、佐伯、日向が西へ、飯塚が南へ、宇部、下関、高鍋が北への広がりをみせる。

図2では、中心都市に対してより遠い市町村が、近い市や町より反って高い通勤・通学率を示すか、または近くを中心都市を飛び越えて遠くを中心都市の影響圏下に属する例が少ないが見られる。所謂「潜上の現象」である。これには、

- (1) 自市町村内での通勤・通学先の少なさ（より中心都市に近い町と対比して）——青森、宮岡、人吉の例。
- (2) 中心都市との交通の便利さ（他のより小規模の競合都市と対比して）——仙台、鹿島の例。
- (3) 上記(1)、(2)およびそれらの結果にもとづく衛星都市度の高さ——大阪の例。
の3つのケースがある。

図2-5 主要中心都市の通勤・通学圏

-九州-



V. 通勤・通学圏の移り変わり

通勤・通学圏の中心都市とその圏域とは、社会情勢の変化に対応して長い年月の間には次第に移り変わってゆくものと考えられる。その実態を知るよりどころとして、S.35の国勢調査結果にもとづいて、筆者がS.40に建設省計画局在職中とりまとめた「通勤・通学状況よりみた都市圏」と題する1枚の地図がある。それには、現在の5%以上の通勤・通学圏に概ね相当すると考えられる2%以上の通勤・通学圏域が示してある。そこで、この地図とこのたび作成した図2とを対比すれば、S.35～60の25年間の通勤・通学圏の移り変わりが或程度つかめる筈である。S.35当時、未復帰の沖縄を除き、人口5万以上の2%圏域の中心都市は289あったが、S.60現在、5%圏域の中心都市は262となり、27の減少となっている。内訳は新たに加わった中心地は39市で、除外されたものは66市である。除かれた中心都市の $\frac{2}{3}$ 程度は、附近の急成長都市の影響を強く受けた結果である。以下、その対比結果について地域別に述べてみよう。

(北海道) 中心都市数はこの25年間に22から11へと半減した。とくに、道央産炭地から道北農漁村地域の中心都市が弱体化したのが特徴的である。新しく5万以上の人口圏域の中心都市に加わったのは千歳市のみで、道東の網走、紋別、道北の稚内、名寄、士別、富良野、留萌、道央の深川、芦別、夕張、岩見沢、倶知安と12もの市が除かれた。圏域の平面形は札幌がやや拡大し、室蘭がやや縮小した他は目立った変化がない。圏域人口は全道の中心となった札幌と工業港苫小牧の伸びがとくに高く、産炭地を控えた砂川の減り方も大きい。札幌、苫小牧間の発展地域には千歳の中心地が生まれ、衰退地域では中心岩見沢が近くの札幌圏に組み込まれた。

(東北) 中心都市数は43から45へと微増。むつ、二戸、久慈など北部の未開発だった地域に中心地が成立し、他に築館と二本松が加わった。また、南部の須賀川、双葉は除かれ、棚倉圏も5万人を割った。全体としてみれば、都市圏の安定的な地域といえよう。圏域ごとの平面形は須賀川を吸収した郡山と大曲とで拡大し、鉄都釜石が縮小した。圏域人口は十和田、仙台、郡山の伸び率が高く、釜石は激減をみた。

(関東) 中心都市数は37から38へと殆ど変化がないが、出入りの変動はかなり激しい。中心都市の独立は、東京圏の外縁部(太田、熊谷、成田、君津、厚木、平塚)と関東外縁部(鹿島、神栖、黒磯、旭)とにみられ、一方、小規模圏の衰退は関東外周部(八日市場、佐原、烏山、日光、中之条)に顕著である。石岡は土浦に、渋川は前橋にそれぞれ吸収された。東京圏は圏域を拡大しておらず、むしろその外縁部に新しい工業拠点の都市圏を成立させているが、自らの圏域人口はこの25年間で約1.7倍に増大して過密化が一層進められた。これらの結果、関東では東京都心を中核としてそれぞれ発展の度合いの異なる同心円的な6つの圏域構造が認められる。東京都心、東京外周、東京外縁(人口増加率最高)、関東在来都市、関東外周(人口減少)、関東外縁の各地域である。圏域空間の拡大したものは土浦、小山、前橋など、縮小したものは日光、足利、銚子などである。また、圏域人口の伸び率では、土浦と小山が最も高く、水海道、宇都宮、前橋、東京(1,620万→2,742万)も可成高い。減少率は日光と銚子が著しい。

(北陸) 中心都市数23は変動がない。小千谷が加わり、小出が5万人を割っている。全国的にみて、都市圏の最も安定した地域である。圏域の変化も少なく、新潟でやや拡大をみた程度である。圏域人口の変化は福野での減少が目立つ。

(中部) 中心都市数は47から39へと減少が顕著である。中心都市間の出入りの変動も

激しく、美濃加茂、榑原、袋井、湖西、西尾、安城、松阪、伊勢、上野が新たに加わり、身延、長坂、飯山、多治見、関、八幡、三島、清水、島田、磐田、蒲郡、一宮、尾西、桑名が除外され、熱海、大仁、鳥羽は5万人を割った。中心都市の独立は、浜松圏、名古屋圏の工業都市が要めといえる。また、中心都市で他に吸収されたものは、名古屋をはじめ、岐阜、沼津、静岡の圏域に、衰退したものは、中央高地の小規模圏にみられる。都市圏空間の拡大は甲府、長野、岐阜、静岡、名古屋の各県都や富士、豊田の工都で、縮小は熱海、鳥羽の観光都市でみられる。圏域人口の伸び率は、豊田が約5倍と全国最高を示し、岐阜、沼津、富士、名古屋（302万→495万）の伸びも高い。減少率は伊勢圏の独立で人口 $\frac{1}{5}$ となった鳥羽を最高に、熱海で高い。

（近畿） 中心都市数は24から21へと3市が減少した。新たに加わったのは、三田と天理で、三重県の上野を加えて大阪大都市圏の外周～外縁部の発展による中心都市の成立である。一方、篠山、柏原、八鹿、湯浅の小規模圏と造船不況による相生圏の衰退がある。圏域の拡大は姫路と和歌山で、縮小は西脇でみられる。圏域人口の変動では、大阪（735万→1,157万）と姫路での伸びが50%を、西脇の減少が30%を超えている。

（中国） 中心都市数は32から27へと5市が減少した。即ち、呉と防府が加わり、備前、井原の小規模圏と造船不況の玉野、徳山圏に吸収された下松が除かれ、安来、新見、高梁が5万人を割った結果である。圏域の拡大は出雲、岡山、倉敷、福山、広島、徳山でみられる。圏域人口の伸び率のとくに高いものは倉敷と徳山で、岡山、福山もこれに次いで高い。

（四国） 中心都市数は15から17へと2市増加した。阿南、脇が徳島圏から、西条が新居浜圏から独立し、大洲も中心都市となった。坂出は高松圏に吸収され、須崎も5万人を割った。圏域の拡大は高松、丸亀、伊予三島、高知などで、また縮小は徳島と新居浜で目立つ。圏域人口の伸び率は丸亀で、減少率は新居浜でそれぞれ高い。

（九州） 中心都市数は46から41へと減少をみた。即ち、熊本圏から玉名が、延岡圏から日向が、水俣圏から出水が、鹿児島圏から国分がそれぞれ独立し、志布志も通勤・通学圏の中心となった。一方、より上位の都市に近接する直方が北九州に、吉井、八女が久留米に、柳川が大川に、小城が佐賀に、江迎が佐世保に、西都が宮崎にそれぞれ吸収され、小規模な竹田、津久見、大口の3市が圏域を失った。圏域の拡大は福岡、久留米、大川、諫早、中津、大分、宮崎、川内で、縮小は伊万里、水俣、延岡でみられる。圏域人口は福岡、大川、諫早、大分、宮崎、川内での伸び率がよく、田川、飯塚、伊万里の旧産炭地や水俣、延岡の企業城下町、農漁村地域の鹿島で減少率が高い。

お わ り に

わが国には通勤・通学圏の中心といえる都市がおもなものだけでも296の多くを数え、大小の圏域に細分されていることがまず判った。それらの都市を中心として、周辺各市町村から常住就業・通当者の15%以上が中心都市を指向する圏域をもって、その狭義の通勤・通学圏とみなすのが最も適当であろうということも判った。その様にして抽出された圏域を単位として種々統計的考察を行った結果、圏域面積と圏域人口とは概ね正の相関関係にあるが、人口の多い都市圏（通勤・通学圏）ほど人口密度も人口増加率も共に高くなる傾向にある。都市規模格差はこのところ年々確実に拡大しつつあり、都市間淘汰も盛んに進行していることが判る。

そして、この四半世紀における中心都市間の移り変りをみてくると、変動量はかなり大

きなものであった。それが丁度わが国の高度成長期であり、現在の安定成長期へと移行する迄の短い期間であったためであろうが……。所在する地域の差（大都市圏との距離、都市発展の熟度の点からみた）、都市規模の大小、都市機能の如何等により、中心都市においても成長と衰退の明暗が判然と分れるのである。

近い将来については、近年みられた傾向が今後も当分の間、よほどの社会的変化のない限り、緩やかに続くであろうし、首都圏への一極集中の傾向もおおしばらくの間は続けられるであろう。今回は対比することが出来なかったが、通勤・通学の現象丈でなく、その他の諸現象をも指標とした都市圏の構成の実態と本質をよく見すえて、都市圏的にみても変り行くわが国土のすがたを地域計画の策定その他に適確に反映させ、本来あるべき各地域間の均衡ある健全なすがたを再建してもらいたいと願うことしきりである。

おもな参考文献

総務庁統計局編：国勢調査報告書

全国都道府県市区町村別人口及び世帯数（確定数） S.55, 60両年分

第6巻 従業地・通学地集計結果

その1 従業地・通学地による人口（1～47） S.60年分

東洋経済新報社刊：1987地域経済総覧

朝日新聞社編：1988民力

建設省計画局編：通勤・通学状況よりみた都市圏（S.35年）

Summary

An area which shares people's life, economic and cultural activities with a major city in a region is formulated around the major city's neighborhood. This is, so called, a city area. I have studied this time commuting and school attending areas of major cities of our country based on nation-wide statistics by city, town and village of commuting and school attending status in 1985.

The plane figure of the area is influenced by various kinds of elements such as traffic conditions, geographical, political and historical conditions as well as scale, functional characteristics and distribution of the major cities, as a result of which there exist many different sizes of commuting and school attending areas.

I defined the major city of a region as one that satisfies all the following conditions.

1. The city which has more than ten thousands of working and school attending population.
2. Of the working and school attending population, more than two thousands people live in its neighboring cities, towns and villages.
3. There are more working and school attending people in the city who live outside of the city than those working and school attending people who live in that particular city.